

一復史料

中興地域概況表

防衛研修所戦史室

5400P-10
1-1

0002

資料通版G-1-10号

中共地域概况表

第三編 第六班

0003

留企二咨第七號

中共地域資料概況別冊送付及び取扱
いに關する件

昭和二十六年 月 日

殿

復員局留守業務部長

留東二咨第一六一號「中共地域資料概況」の別冊附録として「中共地域資料概観圖」及び「中共地域資料概況綜合圖」を送付する。

「中共地域資料概況」本冊「はしがきの二のノ」の第二項として左の如く追加する。

「但し飽く迄綜合圖、概観圖そのものを展示することを避けること」
尚「概観圖」及び「綜合圖」の取扱については「資料概況」本冊と全く同様であるから爲念。

0004

三課

部外秘

第 22 號

(昭和二十五年十一月一日)

留東二資第一六一号 資料通報G第一四号

取扱注意

本概況取扱上左記事項を厳守せられ度

1. 既知先の各長は取扱者を厳選し取扱保管に遺算のない様に特に處置する事

2. 本資料特に死亡数等の数字関係は部外者は勿論部内者も雖主任者以外に閲覧させてはならない
又各地奥の数字を累計し全域に関する統計を作製してはならない

中共地域資料概況

留守業務部

取扱保管

0005

中共地域資料概況配布区分

群馬世話課	栃木世話課	新潟世話課	東部連絡局	福島世話課	宮城世話課	岩手世話課	山形世話課	秋田世話課	青森世話課	東部仙台支部	札幌世話所	釧路世話所	旭川世話所	北海道世話課	第四課	第三課	第二課	第一課	企画課	復員課	配布先	
42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	25	19	13	5	3	1	番配 布
兵庫世話課	和歌山世話課	奈良世話課	大阪世話課	京都世話課	滋賀世話課	福井世話課	中部連絡局	三重世話課	岐阜世話課	石川世話課	愛知世話課	静岡世話課	中復名古屋支部	神奈川世話課	千葉世話課	東京世話課	埼玉世話課	茨城世話課	山梨世話課	長野世話課	配布先	
64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	番配 布
第二資料課	外務省引揚課	経機復員部	鹿児島世話課	宮崎世話課	大分世話課	熊本世話課	長崎世話課	佐賀世話課	福岡世話課	東部連絡局	高知世話課	徳島世話課	香川世話課	中復善通寺支部	山口世話課	鳥取世話課	島根世話課	広島世話課	岡山世話課	中復広島支部	配布先	
88	38	84																				番配 布
100	87	85	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	

は し が き

連絡局同支部世話課（所）の絶大な御援助により中共地域の調査も漸く軌道に乗つて参りました。茲に総合資料を発表し得るに到りました事を深く感謝致します。

今回の発表に當りその形式については世話課（所）側の利用し易い事を第一義とし、図表註記式に致しました。爲に反つて見難い様になりましたが、形式上の御意見も戴き度いと思ひます。次に利用上参考となるべき事項を述べます。

一 調 製 目 的

1 世話課（所）が個人の各調査場面を判定する爲に必要な道標たらしめる。

2 世話課（所）が個人の究明のため當部資料を利用するための端緒たらしめる。

3 當部が統制調査等に行うための基礎資料とする。

二 利用上の着意

1 中共地域の概念を得る爲には総合図を、又部外者等に対しては概観図を便とする。

2 一地点の状況を知る爲にも先づその地域の移動群等全般の動きを承知した後細部状況には入る。

3 各葉共に要調査事項とその好資料保有者を明示する事を重点としてある。

當部には各葉に記載した事項の細部状況、資料保有者等も整理してある。

中共地域資料概況用図式記号符合一覽表

事項	符記圖号式	記載上の注意	事項	符記圖号式	記載上の説明	主要職域団体											旧日本軍係	その他	要調査事項	死亡救済	現在残留	資料保存者	留用者
						満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲							
山嶽	△	諸軍象に關係ある著名岳を記載するものとす。その右側に山名を記入する	服罪者	◎	◎ 500 虎形服罪者とし数の附記をなす	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
山地	⊙	くわのうを附せる部分は通過困難なるものを示す	自動車隊	⊙		満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
河川	∩	諸軍象に關係ある河川を記載するものとす。その側に流路に沿ひ河川名を記入する	兵争部	☆	旧日本軍の兵争部を示す	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
鉄道	—+—		死亡事象	●	死亡者数は本記号の右に添記する	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
村落	●	行政区分による市以外のものにして調査に必要なる聚落を描画するに用いる	事件	⊗		満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
市街	■	行政区分による市は本記号を使用する	障碍	〰		満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
橋梁	—+—		行動経路	—+—		満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
收容所	△	武解以後の收容所 —收容所につき本記号一を附す	入り経路	↘	(ウミジオ)等と記述す	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
武裝解除場所	□		逆送経路	↙	(ウミジオ)等と記述す	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
作大編成場所	⊙	作大番号を原数乃至末数と記述する	現召経路	↘	月日人員を附記す	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
收容所病院	◇	收容所に附属する病院につき本記号一を附す				満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
軍区病院	◇	中共軍区に所属する諸病院につき記載し、病院番号とその傍側に註記する				満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
野戦病院	◇	中共軍各所に所属する諸病院につき記載し、病院番号とその傍側に註記する				満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
行動群	〰	年反計画に示す行動群の定義による軍人行動群を示し要すればその名称を註記する				満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
行動群	〰	軍部人混雑する流動群を示し要すればその名称を註記する				満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
岡田隊	⊙	岡田隊を示す。隊内の小岡田回は〇印を附し所要の註記を附す				満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
兵工部	火					満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
縦隊	CA	例へば 4CA 等と記述す				満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
衛生隊	CS					満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
中共学校	文					満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
工場	⊥	留用工場（除軍兵工部）につき記載す				満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
炭坑	父	留用炭坑につき記載する				満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
官公署	◎					満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	
留用者	◎	(留)50 等と記入す				満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	満洲	

中共地域資料概況目次

1	北鮮抑留者流動状況概況 (逆送受入時以前)	27	新京集中移動群(流入行動群の一例)
2	北鮮抑留者移動概況(逆送受入時以後)	28	新京市街略図
3	古茂山收容所人員移動概況	29	新京難民流入、死亡、南下状況
4	平壤收容所人員移動概況	30	依蘭、朝陽川移動群行動
5	興南各收容所人員移動概況	31	千ヤムス残留者の行動図
6	向島地区兵団職域団体の停戦後の流動 状況	32	鶴岡炭坑概況
7	延吉退院者留用群	33	黒河——北安地区一般概況
8	延吉收容所病院相互間の時間別相互関 連特性	34	黒河市一般概況
9	延吉第一病院	35	黒河逆送関係部隊人員表
10	六四六收容所	36	黒河第一病院(傳染病)状況
11	二八收容所配置図	37	黒河第二病院(経歴)概況
12	延吉第二病院	38	黒河江岸收容所
13	延吉第三病院	39	黒河南崗收容所概況
14	延吉第四病院	40	黒河事件脱出行動群概況
15	琿春地区資料概況	41	黒河、北安移動群(南下梯団)概況
16	鏡河、勃利、虎頭、横道河子、 知、移動群	42	黒河、北安南下梯団編成経緯編成表
17	牡丹江、敦化流動群要図	43	北安市分散地区概況(含鶴岡移動群)
18	牡丹江地区概況図	44	北安病院(独歩司令部跡)状況
19	謝家溝收容所概況	45	哈爾濱市状況
20	南五七病院状況	46	ハルビン市收容所病院配置
21	南八病院状況	47	海拉爾、扎蘭屯、子、ハル地区概況
22	掖河收容所概況	48	子、ハル收容所(病院)配置
23	掖河病院状況	49	通化市人員転出入概況
24	敦化飛行場附近留邦人集結入院概況	50	奉天收容所配置及死亡場所概況
25	老爺嶺「サクラ」行動群概況	51	奉天市人員変動概況
26	吉林市留邦人轉出入概況	52	安東市人員転出入概況

別冊 附録

- 1 中共地域資料概況図
- 2 中共地域資料概況綜合図

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">1</td> </tr> <tr> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">2</td> </tr> </table>	1	2
1			
2			
分割撮影した理由	A3版以上のため		
文書等名	北鮮抑留者流動状況概況 逆送 受入時以前		
上記のとおり分割撮影したことを証明する。			

北鮮抑留者流動状況概況

逆送受入時以前

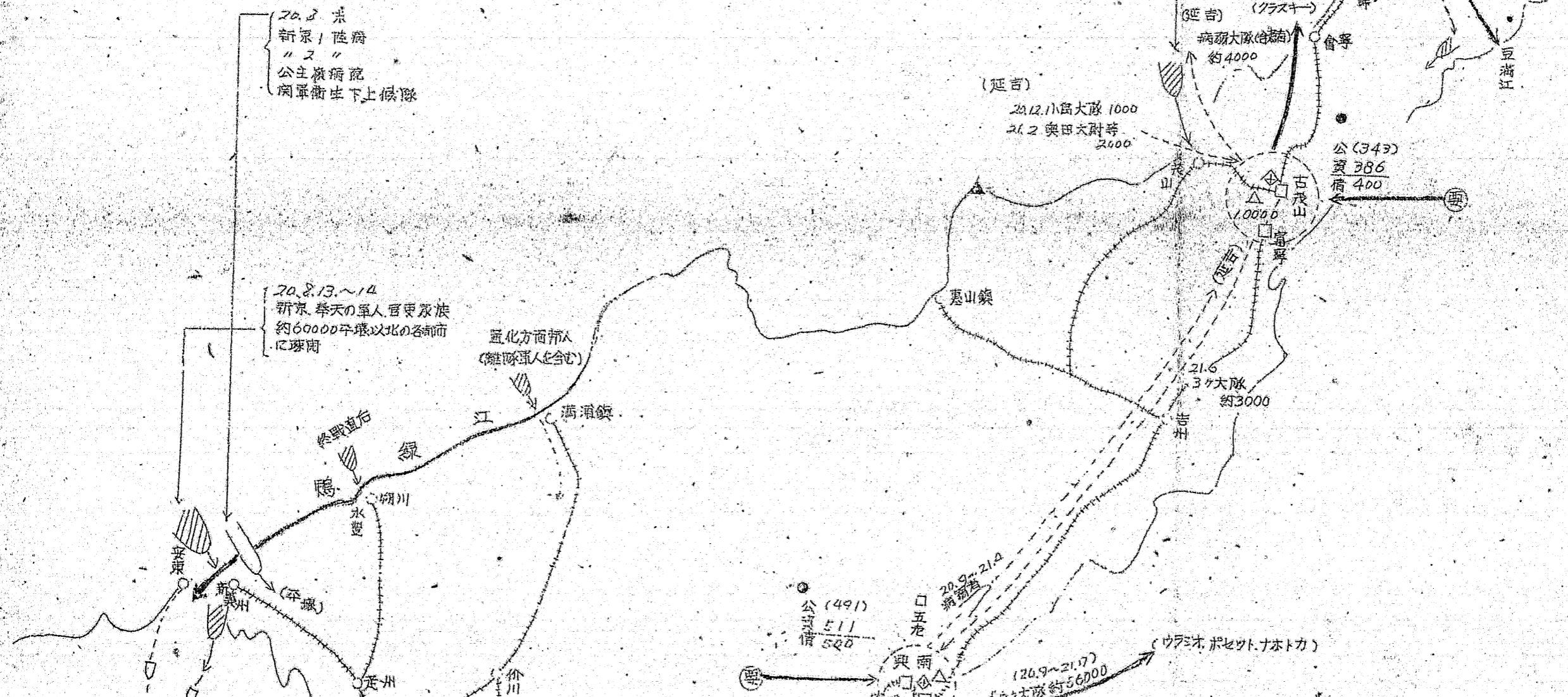
0010
0011

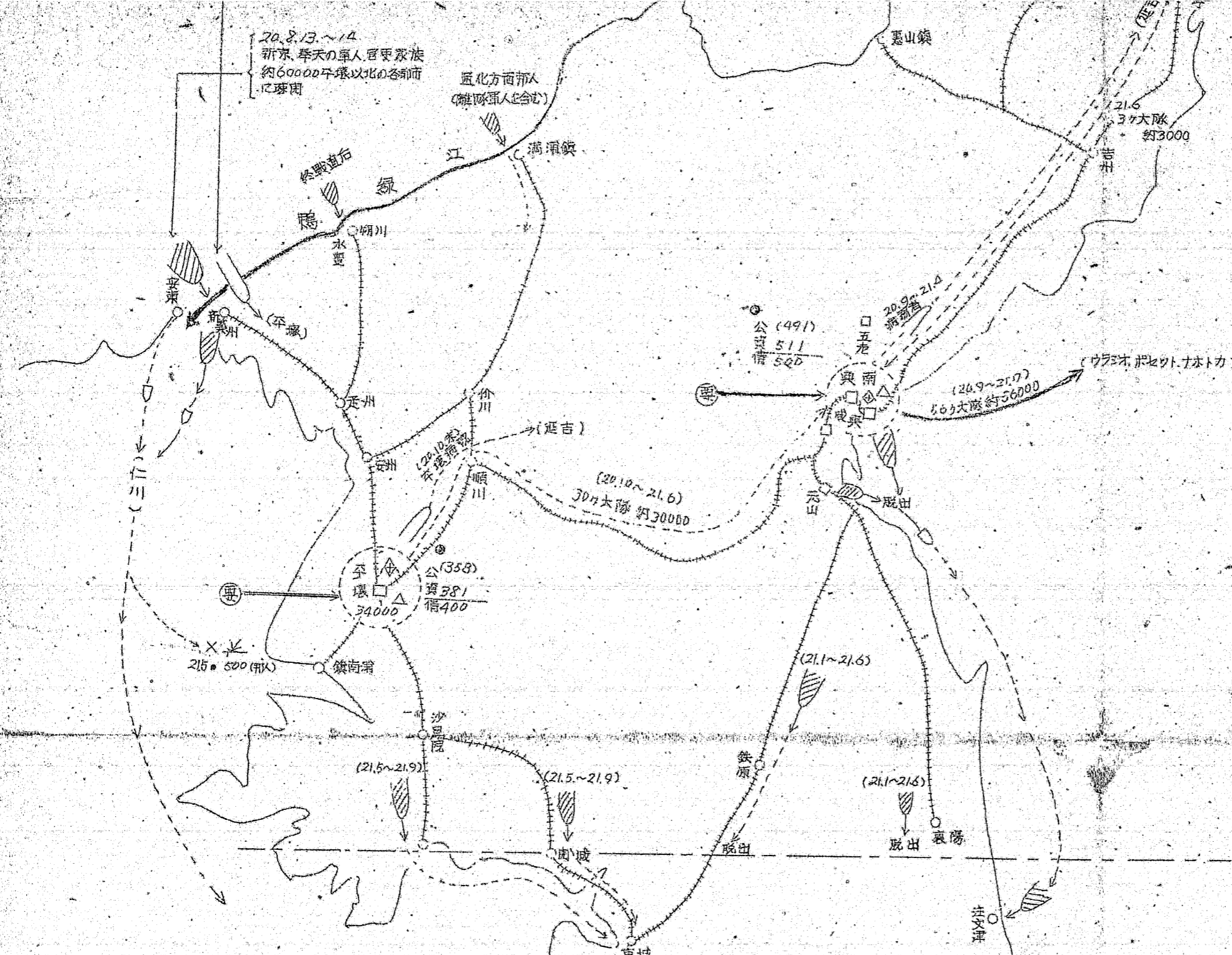
主要都市に於ける一般邦人死亡資料

邦人死亡資料	主要都市														備考		
	咸興	興南	元山	平壤	銀南浦	定州	郭山	博川	南浦	宣川	亀城	方暇	茂山	新義州		器津	会亭
邦人死亡資料	七七八	三〇四二	一三〇二	三六四二	一五五八	六〇〇	六〇〇	一三一	二五三	二五六	一六一						
軍人名簿	一六四	二五		六										二二	三〇	一七	三三
未生犯	九五	一七		七										三	八	一六	一五

備考
軍人名簿「欄」に記入しなかった者、
死に若くは重傷者も混入していると思われる
邦人死亡資料は同和会が調査したものである

終戦後、西北鮮の平壤師管区の各部隊は平壤に、東北鮮では國境附近のククリ師管南師管区の各部隊は古茂山醫寮に、54軍隷下の各部隊は興南及び定平咸興、五龍里等に集結、武装解除を受け、20.9より逐次作業大隊を編成し、ソノソノに興南港経由、或は延吉、瑯春を経由して入ソした。此の間に於ける入ソ不能の病弱者は平壤、興南、古茂山、醫寮の各病院に入院、一部延吉に送つた。一般邦人の脱出は終戦直后南下したものを除き、越冬時は殆んど行われず、21.4頃になり東北鮮北部、次いで南部、西北鮮の邦人が脱出、東北鮮は夏頃迄、西北鮮は秋迄に脱出は殆んど完了した。越冬時に於ける悪疫による死亡者は極めて多く、此の中に若干の軍人も混入している。





南鮮經由引揚(脱出)邦人概見

28度線近辺の脱出	約 50000
京城經由(仁川上陸者を含む)	約 180000
注文津經由	約 38000
其の他	約 10000
合 計	約 280000

補 1、上記の中には大連安東方面より北鮮—南鮮經由の脱出者も含まれている
 2、上記引揚邦人中に軍人(上陸地申告者)10622名が含まれている。

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">2</td> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">1</td> </tr> <tr> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">4</td> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">3</td> </tr> </table>	2	1	4	3
2	1				
4	3				
分割撮影した理由	A3版以上のため				
文書等名	北鮮抑留者移動概況 逆送受入時以後				
上記のとおり分割撮影したことを証明する。					

北鮮抑留者移動概況

(逆送受入時以後)

0012
0013

0014
0015

死亡状況概観

樺太	平壤	興南
(60)	(744)	(816)
76	769	859
60	1,800	2,500

概況
21.6北鮮地区の各作大入、同、完了と同時に、秋各地域より流亡者約27000名がポソット港より清津、興南に上陸、清津に上陸したものは古茂山、平壤、の各収容所に入り、興南に上陸したものは興南各収容所、病院収容され、21.12～22.3にかけて全員帰還している。此の間に於ける病死、落着けガスによる死亡者は左記死亡状況概観通りである。

要調査事項

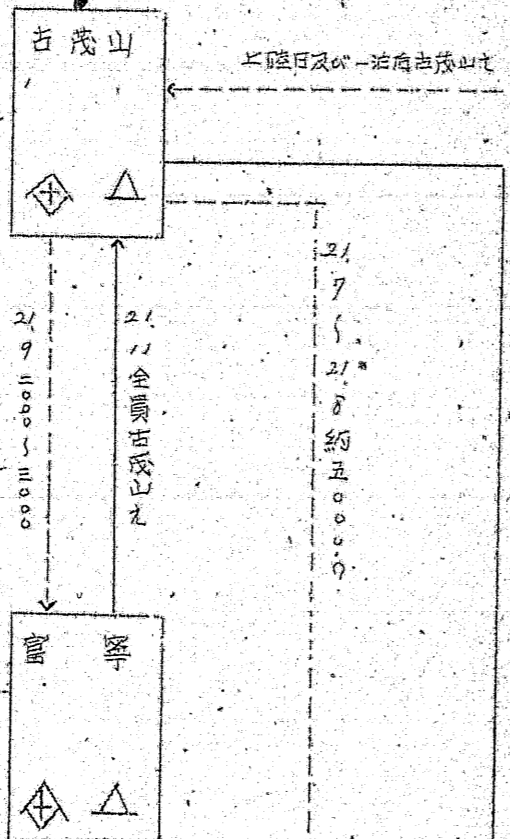
- 一 逆送者の船中、清津、古茂山の死亡者
- 二 逆送梯面の受け入れ状況
- 三 逆送者の古茂山、平壤、興南に於ける死亡
- 四 再入「」状況
- 五 逆送者送り出し、収容所の掌握

(クラスキー)
21.8.下 移浦中尉以下 800~1000 ⑬

清津
20000
(21.6→21.7)

清津受入逆送梯面

上陸年月	上陸人員
21.6.1	約2500 (或は約4000)
21.6.10	約1300
21.6.下	約5000
21.7.下	約4000
外月日	人員不明
計	約20000 ⑬ ⑭



21.12 中尉 長谷川大佐以下 約1000
21.12 14 全百大尉 以下 約1000
21.12 16 全百大尉 以下 約1000

(21.6~21.7) 約8000 (平壤經由梯面を含む)

21.7.18 約6000
21.7.28 約1000
平壤に約1000
清津に約1000

6900 (21.7~21.8)

22.1.6 吉村大尉以下 約400 鎮海津作業 ⑯

各収容所逆送送り出し状況

地区名	人員	地区名	人員
アルナム	7684	チロシロフ	200
バルナウル	1370	イルクーク	180
スーナム	1060	ムフロフオ	170
ウズルスク	773	アガチキヤ	170
イリシホフ	528	イマン	135
ライキハ	500	イズバスト	135
ウラジオ	453	アンベルカ	120
クラウツ	400	チ	80
リフガフニ	350	スレツスク	50
ムニ	350	コムモルカ	40
ガラドック	300	ピロビツシ	36
ウヤウカ	230	ブツゴエ	20
アルナスカ	227	労働大隊	188
ヒヨフカ	200	計	9992

②

北鮮抑留者移動概況

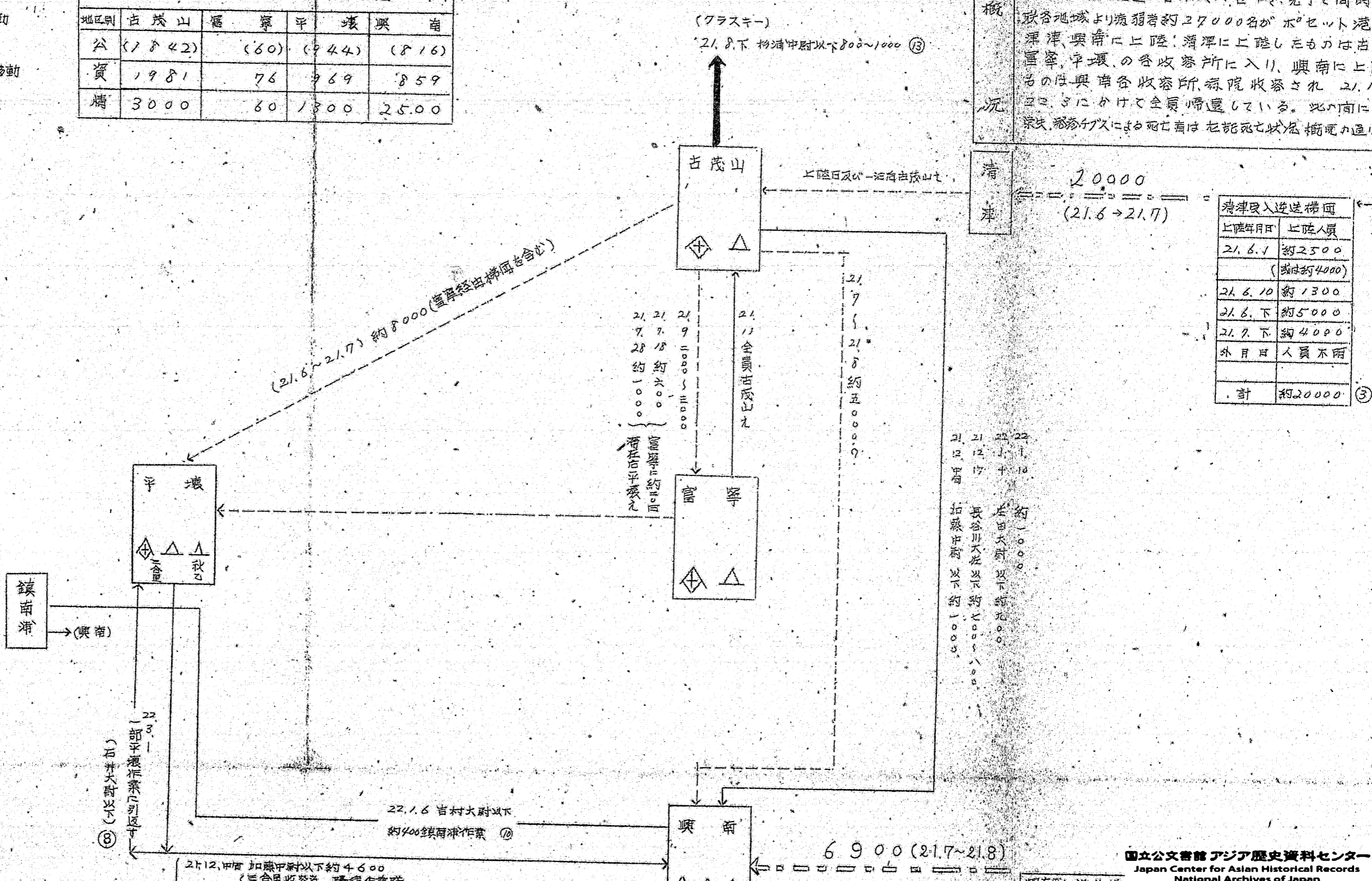
(逆送受入時以後)

凡例

-----> 逆送直後の移動
 -----> 帰還のための移動

地区別	古茂山	富寧	平壤	興南
谷	(1842)	(80)	(944)	(816)
資	1981	76	969	859
精	3000	80	1800	2500

概況
 21.6北鮮地区の各作大入、同、完了と同時に各地域より脆弱者約27000名がポセツト港、津津、興南に上陸。清津に上陸したものは古茂山、平壤、の各収容所に入り、興南に上陸したものは興南各収容所、病院収容され、21.12.31にかけて全員帰還している。此の間に、疾病、飢餓、ガスによる死亡者は左記死亡状況概況通り



上陸年月日	上陸人員
21.6.1	約2500 (谷は約400)
21.6.10	約1300
21.6.下	約5000
21.7.下	約4000
外月日	人員不明
計	約20000 ③

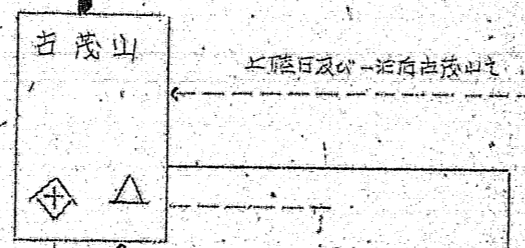
山	平	壤	奥	南
842)	(60)	(944)	(816)	
981	76	969	859	
000	60	1800	2500	

21.8.下 物浦中尉以下約800~1000 ③

津津、奥南に上陸、清津に上陸したものは古茂山、平壤、の各収容所に入り、奥南に上陸したものは奥南各収容所、蘇院収容され、21.12~22.3にかけて全員帰還している。此の間に於ける東京、釜港、アズによる死亡者は在留死亡状況概算の通りである。

一 逆送者の船中、清津、古茂山の死亡者
 二 逆送船中の受け入れ状況
 三 逆送者の古茂山、平壤、奥南に於ける死亡
 四 再入りの状況
 五 逆送者送り出し、収容所の事情

(21.6~21.7) 約8000 (富寧経由梯団を含む)

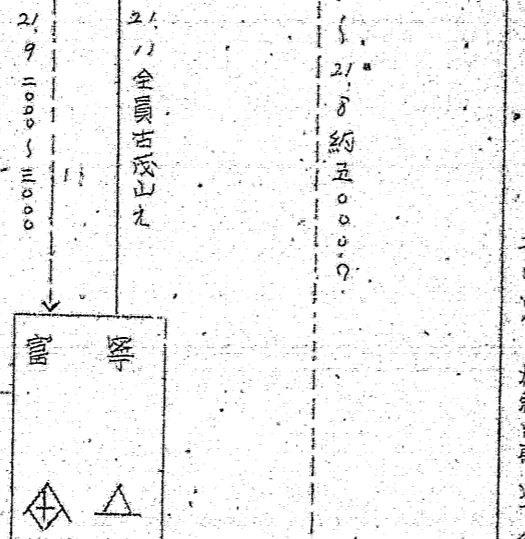


清津

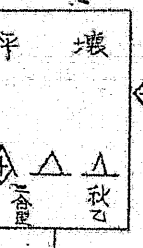
20000 (21.6~21.7)

上陸年月日	上陸人員
21.6.1	約2500 (或は約4000)
21.6.10	約1300
21.6.下	約5000
21.7.下	約4000
外月日	人員不明
計	約20000 ③ ④

21.7.18 約6000
 21.7.28 約10000
 富寧 約10000
 清津 約10000



21.12.14 約10000
 21.12.17 長谷川大尉以下約7000
 22.1.10 石井中尉以下約10000

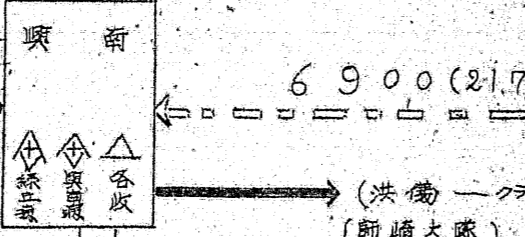


各収容所逆送、送り出し状況

地区名	人員	地区名	人員
アムナム	7684	カシロフ	200
バルナウル	1370	イルクーツク	180
ヌーチャ	1060	ウラロフ	178
ウズルカ	773	ブガチャ	170
キルギン	528	イマン	135
ライキハ	500	イズバスト	135
ウラジ	453	アンセルカ	120
ウラウラ	400	チ	86
リフガ	350	スレンスク	50
ム	350	ジャソル	40
ガラック	300	ピロビヤ	36
ウラウラ	230	ブガチャ	9
アルシカ	227	労働大隊	188
セシヤ	200	計	9993

捕 領各地区より北鮮に逆送されるため出発した人員中主要なものは上記の通りである。

21.12.甲 加藤中尉以下約4600 (合軍収容所、橋線作業隊)
 21.12.29~22.12 約5400 ① ② (逆送者の外に作大隊員約2000が含まれている) 上記5400名の中石井大尉、島津中尉以下約600名平壤作業のため奥南到着前引き返し作業に従事
 22.3.1.石井大尉以下約600 ③
 22.3.3.吉村大尉、大村中尉等約400 (銀帯連作業隊) ④



6900 (21.7~21.8)

上陸年月日	上陸人員
21.7.1	約3000
21.7.中	約3500
21.8.4	約4000
計	約6900

大辰大信大勇栄辰大永
 安日郁洋瑞大豊日瑞緑
 丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸

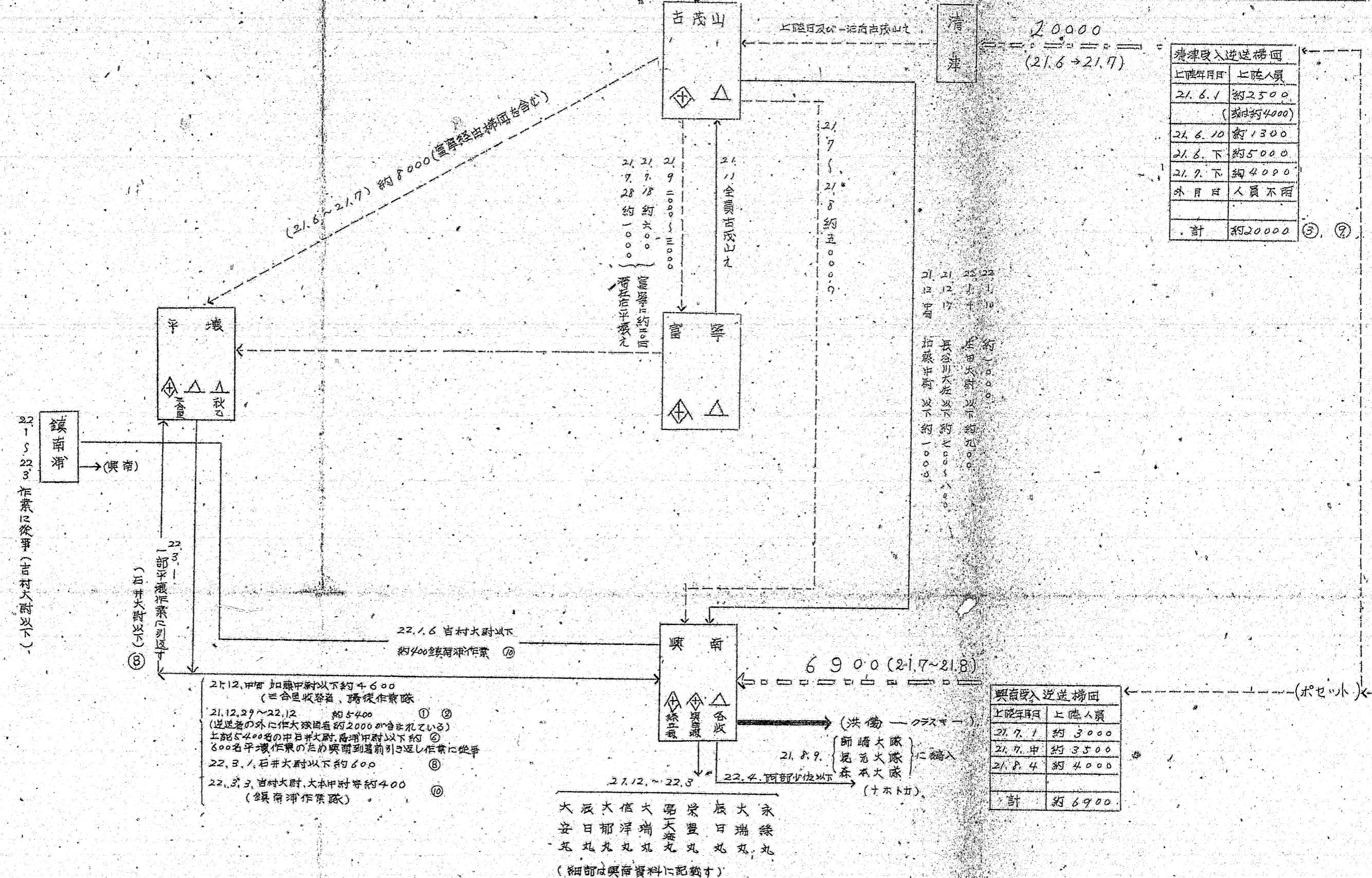
(細部は奥南資料に記載す)

→ 逆送直後の移動
→ 帰還のための移動

地区別	古茂山	富 塚	平 塚	興 南
公	(1,842)	(60)	(944)	(816)
資	1981	76	969	859
備	3000	80	1300	2500

(クラスキー)
21.8.下 杉浦中尉以下800~1000 ⑬

概況
秋各地域より捕縛者約27000名がポセット港より津津、興南に上陸。清津に上陸したものは古茂山、富塚、平塚の各收容所に入り、興南に上陸したものは興南各收容所、病院收容され、21.12~22.3にかけて全員帰還している。此の間に於ける東京、岩手、宮城による死亡者は七能死亡状況樹図の通りである。



大阪 大信 大尾 柴 辰 大 永
安 日 郁 洋 瑞 大 豊 日 瑞 緑
丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸
(細部は興南資料に記載す)

中共地域資料概況好資料保有者名表

資料番号	資料保有者名	地点	期前	所属	階級	現住	氏名
1		平壤	22 20 1 8	可平師	大医佐		菅原章三郎
2		"	22 20 1 8	一平派師	大尉		今村 忍
3		古茨山	22 20 1 8	羅病	大医佐		長谷川 逸郎
4		"	22 20 1 8	工羅補師	見士		丸橋 信雄
5		"	22 20 1 8	朝二〇八	中医尉		森川 俊夫
6		"	20 8 1	朝二〇三	見士		下津 博則
7		平壤	22 20 1 8	疏平塚	少医佐		古館 勉
8		平壤	22 20 1 9	独野五八	中尉		島浦 文一
9		古茨山	22 20 1 8	79K	准尉		船田 辰夫
10		平壤	22 20 3 8		少尉		大本 明
11		古茨山 英南	21 20 21 12 20 21 3	二歩 二八〇	中医尉		松本 茂彦
12		平壤	21 1		中佐		加藤 義雄
13		古茨山	21 21 8 6 8 下 3	四衣 四九三	兵長		吉岡 正夫

(3)

0016

分割撮影ターゲット

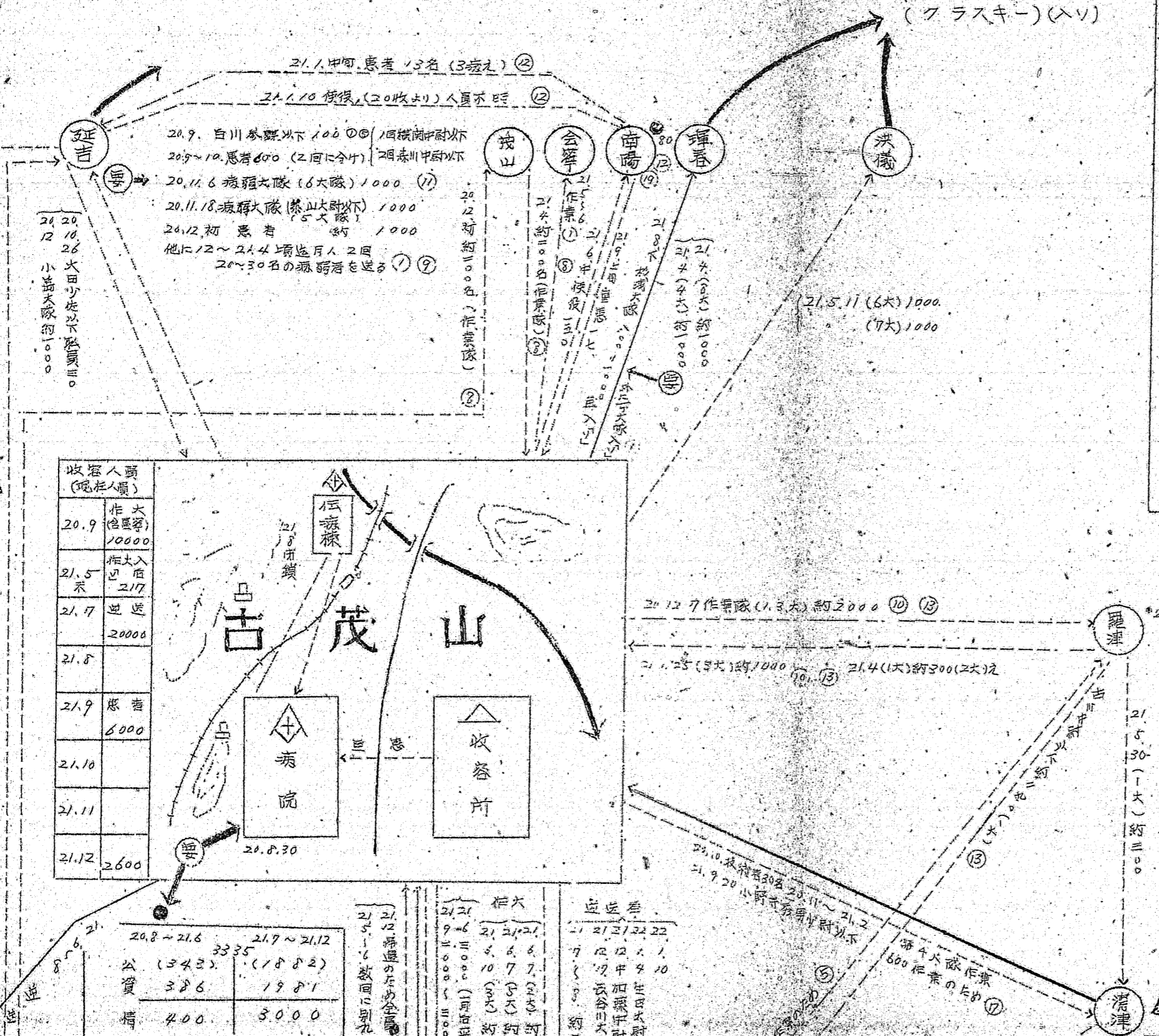
分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; height: 60px; text-align: center; vertical-align: middle;">2</td> <td style="width: 50%; height: 60px; text-align: center; vertical-align: middle;">1</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; height: 60px; text-align: center; vertical-align: middle;">4</td> <td style="width: 50%; height: 60px; text-align: center; vertical-align: middle;">3</td> </tr> </table>	2	1	4	3
2	1				
4	3				
分割撮影した理由	A3版以上のため				
文書等名	古茂山収容所人員移動概況				
上記のとおり分割撮影したことを証明する。					

0017
0018

0019
0020

古茂山收容所人員移動概況

要調査事項	特性
一 逆送の受け入れ状況及び好資料保有者の掌握	一 作大編成次第の此の歸着し患者を收容す
二 收容人員の他收(含延吉)との交流	二 作大入所後逆送患者を受け入れ栄失伝染病による死亡者多し
三 死亡者(特に逆送受け入れ)の死亡者	三 延吉と病弱者職員との交流あり



收容人員 (現在人員)

20.9	作大 (含患者)	10000
21.5	作大入所	217
21.7	逆送	2000
21.8		
21.9	患者	6000
21.10		
21.11		
21.12		2600

伝染病棟

收容所

作大	逆送者
21.12.1 約10000名	21.12.1 約10000名
21.12.2 約10000名	21.12.2 約10000名
21.12.3 約10000名	21.12.3 約10000名
21.12.4 約10000名	21.12.4 約10000名
21.12.5 約10000名	21.12.5 約10000名
21.12.6 約10000名	21.12.6 約10000名
21.12.7 約10000名	21.12.7 約10000名
21.12.8 約10000名	21.12.8 約10000名
21.12.9 約10000名	21.12.9 約10000名
21.12.10 約10000名	21.12.10 約10000名
21.12.11 約10000名	21.12.11 約10000名
21.12.12 約10000名	21.12.12 約10000名

公費	私費
20.8~21.6 343	21.7~21.12 (1882)
386	1981
400	3000

逆送受け入れ状況
 上陸年月日 と 陸人員

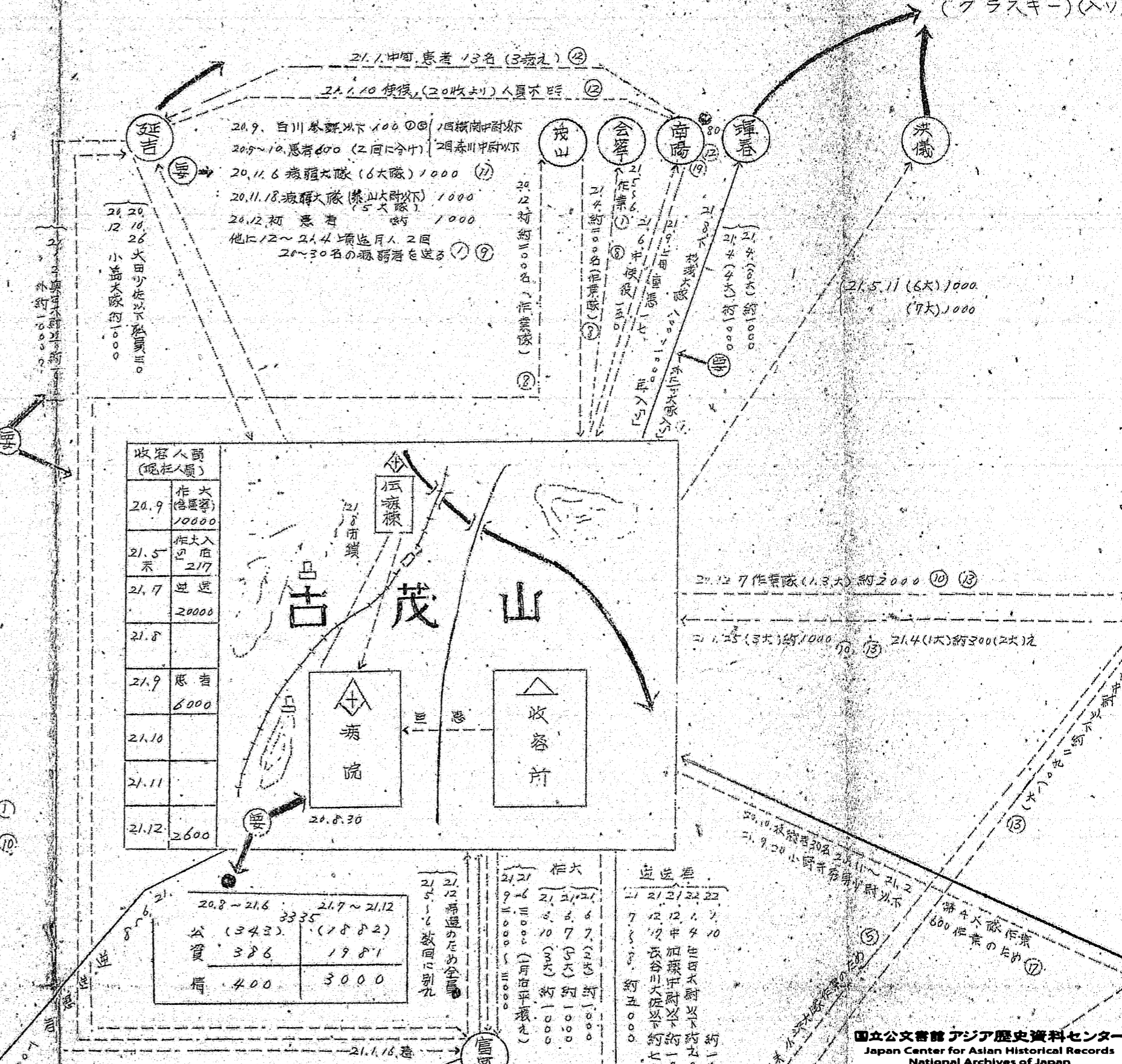
吉茂山收容所人員移動概況

(グラスキー)(入リ)

時期別幹部取員表

時期	区		分	
	官	本	部	作
	長	副	主	業
20	司令官	副司令官	第一隊長	第二隊長
	野谷	野谷	野谷	野谷
	野谷	野谷	野谷	野谷
	野谷	野谷	野谷	野谷
21	司令官	副司令官	第一隊長	第二隊長
	野谷	野谷	野谷	野谷
	野谷	野谷	野谷	野谷
	野谷	野谷	野谷	野谷
21	司令官	副司令官	第一隊長	第二隊長
	野谷	野谷	野谷	野谷
	野谷	野谷	野谷	野谷
	野谷	野谷	野谷	野谷

時期	官	本	部	作
	長	副	主	業
21	司令官	副司令官	第一隊長	第二隊長
	野谷	野谷	野谷	野谷
	野谷	野谷	野谷	野谷
	野谷	野谷	野谷	野谷



此の歸着し患者を收容す

逆送患者を受入れ先失、伝染病

石多し

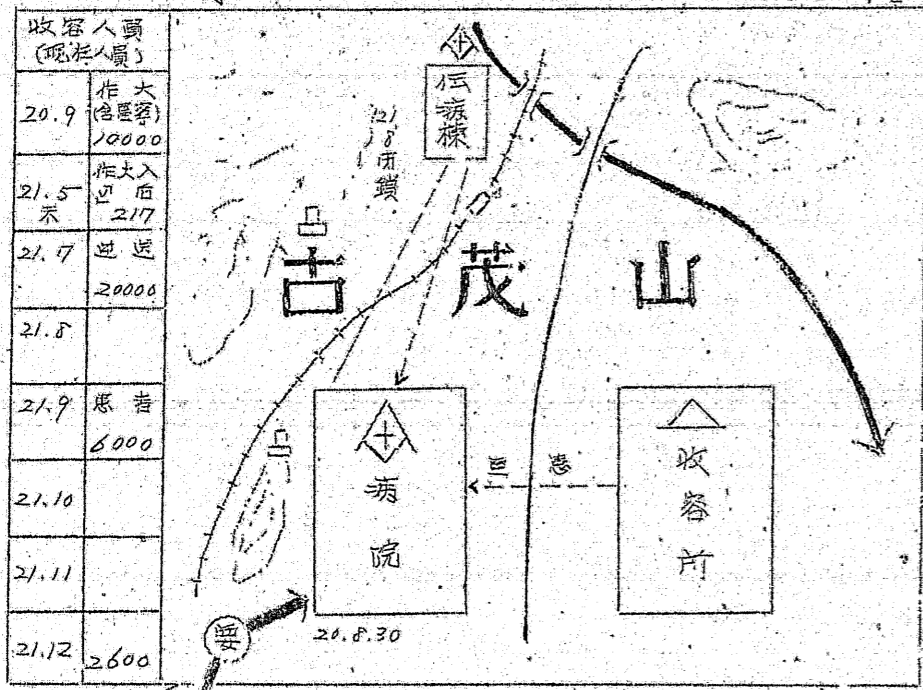
若職員の交流あり

札状況及び好資料保有者の掌握

他収(会延吉)との交流

逆送受入(入)の死亡者

此の歸着し患者を收容す
逆送患者を受入れ先失、伝染病
石多し
若職員の交流あり
札状況及び好資料保有者の掌握
他収(会延吉)との交流
逆送受入(入)の死亡者



收容人員 (現在人員)	
20.9	作大 (伝染病) 10000
21.5	作大入后 217
21.7	逆送 20000
21.8	
21.9	患者 6000
21.10	
21.11	
21.12	2600

日	公費	費
20.8~21.6	3432	386
21.7~21.12	1882	1981
備 400 3000		

公 (368)
費 (470)
備 (400)

逆送受入れ札状況	
上陸年月	上陸人員
21.6.1	約 2500
21.6.10	約 1500
21.6.下	約 5000
21.7.上	約 6000
21.7.下	約 4000
外日人員不明	
計	約 20000

富嶽療養所職員表	20.9~20.10 (一期)	20.11~21.6 (二期)	21.7~21.9 (三期)
外務科	長 以田 副 以田	長 以田 副 以田	長 以田 副 以田
内科	科 山本	科 山本	科 山本
外科	科 山本	科 山本	科 山本
衛生科	科 山本	科 山本	科 山本
庶務科	科 山本	科 山本	科 山本

隊 小島中尉 大野大尉
大隊
伝染病科 衛生科 外科 内科
山本中尉 山本中尉
山本中尉 山本中尉
山本中尉 山本中尉

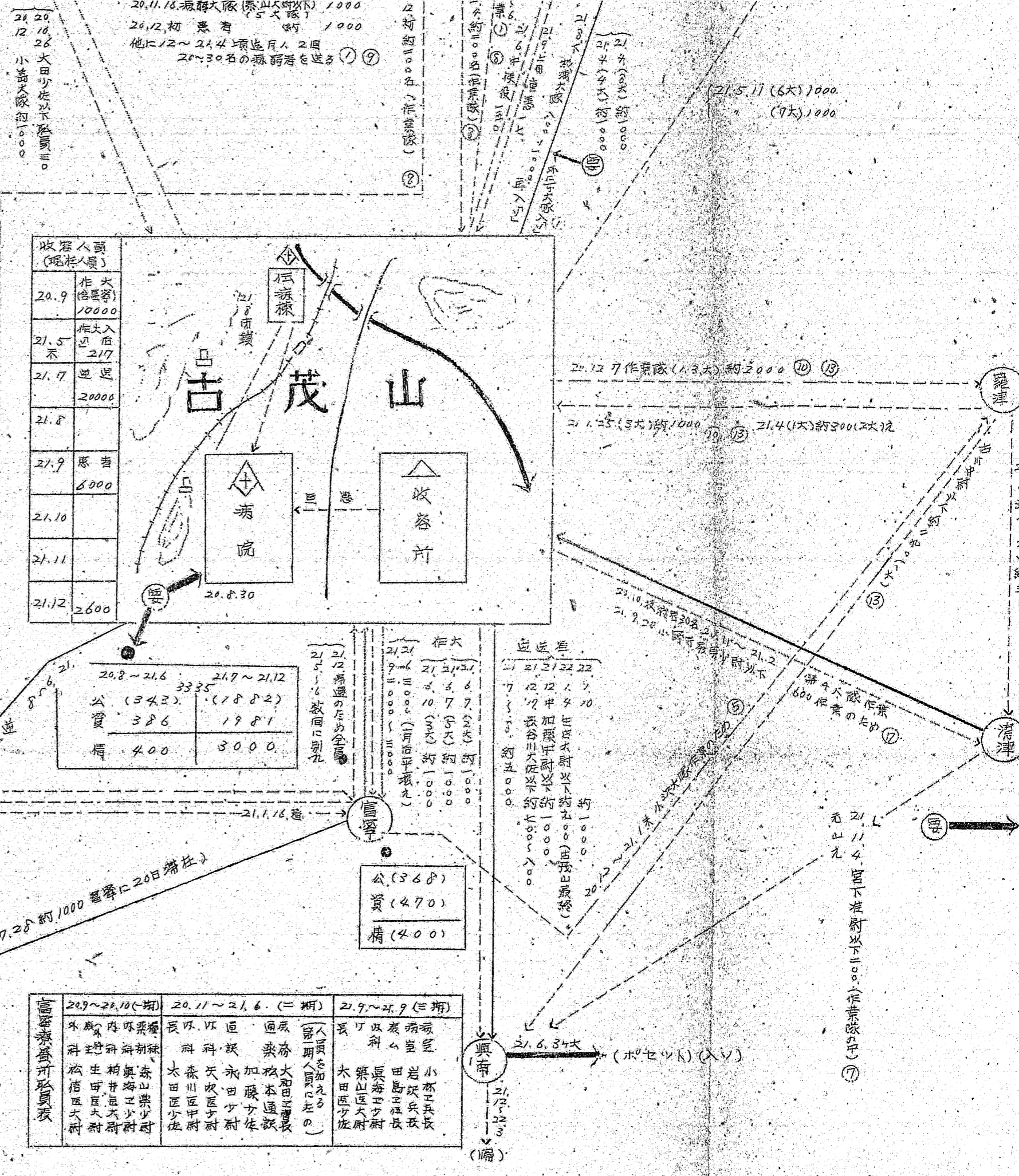
20	司令官	副司令官	軍医長	主計長	文化部長	第一隊長	第二隊長	第三隊長	第四隊長	第五隊長	第六隊長	第七隊長	第八隊長	第九隊長	第十隊長
21	野田	加藤	大野	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中
22	野田	加藤	大野	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中
23	野田	加藤	大野	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中
24	野田	加藤	大野	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中	藤中

収容人数 (現在人員)	備考
20.9	作大 (倍増) 10000
21.5	作大入后 217
21.7	逆送 20000
21.8	
21.9	患者 6000
21.10	
21.11	
21.12	2600

期間	公費	資費	備費
20.8~21.6	3433	386	400
21.7~21.12	1882	1981	3000

公 (368)
資 (470)
備 (400)

高野濱養護所職員表	20.9~20.10 (一期)	20.11~21.6 (二期)	21.9~21.9 (三期)
外科	内科	内科	内科
外科	内科	内科	内科
外科	内科	内科	内科
外科	内科	内科	内科
外科	内科	内科	内科
外科	内科	内科	内科
外科	内科	内科	内科
外科	内科	内科	内科
外科	内科	内科	内科



中共地域資料概況好資料保有者名表

番号	資料	番号	資料	番号	資料	番号	資料	番号	資料	番号	資料	番号	資料	番号	資料	番号	資料	番号	資料	番号	資料	番号	資料	番号	資料	番号	資料		
21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	古茨山	古茨山	古茨山	古茨山	古茨山	古茨山	古茨山	古茨山	古茨山
22.20.19.9	20.9.5	21.20.10.10	22.20.7.9	22.21.1.6	22.21.1.5	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	22.20.1.8	
警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	警大	
中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	
横	柏	木	真	加	倉	浅	森	高	藤	早	丸	下	船	高	大	鈴	築	松	生	長	氏								
國	井	下	海	藤	地	野	川	寺	中	瀬	橋	津	田	橋	沢	木	山	本	田	谷	名								
信	良	孝	泰	幸	福	次	俊	末	淳	佐	信	博	辰	定	光	福	義	次	義	川									
一	夫	雄	造	四	平	義	雄	信	三	十	雄	則	夫	夫	枝	司	雄	彦	信	逸									

(5)

0021

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">2</td> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">1</td> </tr> <tr> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">4</td> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">3</td> </tr> </table>	2	1	4	3
2	1				
4	3				
分割撮影した理由	A3版以上のため				
文書等名	平壤収容人員移動概況				
上記のとおり分割撮影したことを証明する。					

平壤收容人員移動概況

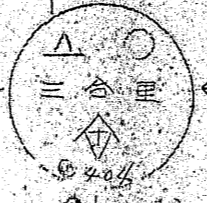
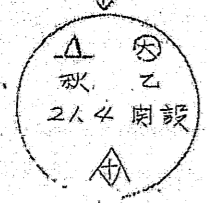
0022
0023
0024
0025

20.10.30 552 (別所少佐以下) 20.11.中 大尉少佐以下300(21.1頃解放)資料
 20.11.1 573 (水野大佐以下)
 20.11.28 1000 (平1旅400 三合収転送者600)資料④
 21.1 700 (患者)

延吉
 20.12.上旬 1000 (産弱者)
 資料⑤

三合里に集結せる部隊の一
 部は平壤市内及鮮北各地
 にて作業 21.5頃秋乙收
 に集結

平壤師管区部隊同隷属部隊
 関東軍補給部隊 同隷属部隊
 120D 137D
 平壤航空地区司令部 航空諸部隊
 海軍第5燃料廠



21.4中旬 約10,000及患者收容所
 資料①③⑦

作大幹部要員50

日付	作業大隊	人数	経路
20.10.24	美敦洞秋乙2大隊	2500	興南經由
10	三合里1~12大隊	12000	
12	" 20.21大隊	2000	
21.1	" 13.15~18大隊	5000	
6	秋乙1~6.9大隊	7000	
7	" 17大隊	1000	延吉經由
8	" ?大隊	1000	
20.11.1	三合里31.32大隊	1800	
11.3	" 27大隊	1000	
11.末	" 28大隊	1000	

日付	人数	三合里大隊
1	1000	14大隊
2	"	15
3	"	19
4	"	22
5	"	25
6	"	23
7	"	22.23
9	"	

20.9 ~ 21.4
 通書 別 補 官 官
 記 言 宣
 黒池工中依島田加古
 川町厚 藤原村 藤 館
 弘 崎 清 裕 邦 文 新 義
 男 二 美 一 男 一 作 雄 勉

日付	人数	人数	人数	人数
1	1004	12	1000	23
2	1000	13	"	24
3	"	14	"	25
4	"	15	"	26
5	"	16	"	27
6	"	17	"	28
7	"	18	"	29
8	"	19	"	30
9	"	20	"	31
10	"	21	"	32
11	"	22	"	

吉塔 104
 21.6~8 7500~8000
 吉成山經由 延吉経由

21.4 ~ 21.12
 通 被 糧 書 團 司 官
 隊 長 衣 服 採 記 官 官
 資料①③⑤
 菅 仲 左 阿 山 日 加
 京 藤 訶 口 村 藤
 章 裕 鉄 惠 耕 義
 郎 一 康 前 弘 作 産



資料④ 健康回復者
 ① 21.12中旬 200~300(管原大佐以下)
 ⑤ (加藤中佐以下4000出発後の残者)

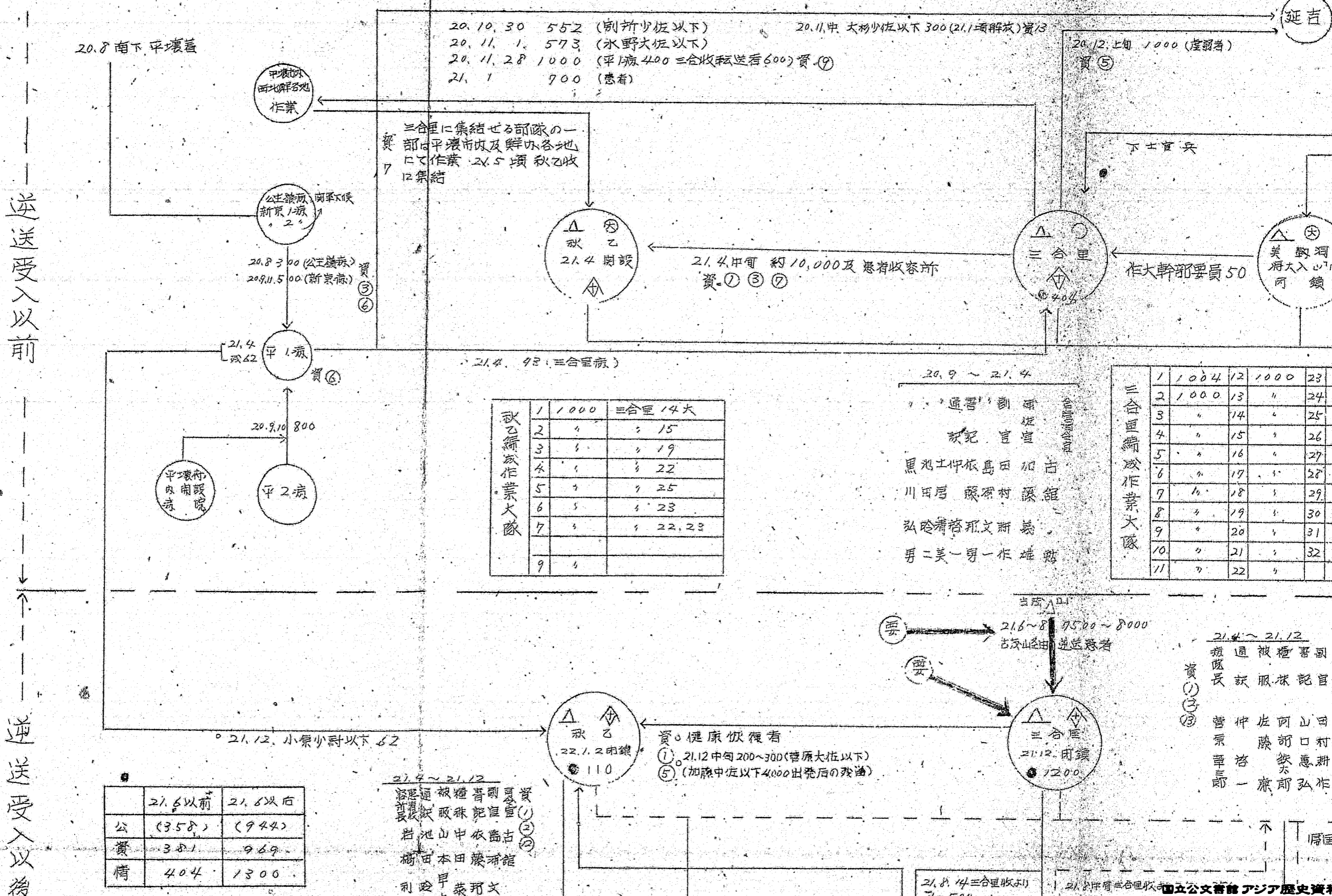
21.4 ~ 21.12
 通 被 糧 書 團 司 官
 隊 長 衣 服 採 記 官 官
 菅 仲 左 阿 山 日 加
 京 藤 訶 口 村 藤
 章 裕 鉄 惠 耕 義
 郎 一 康 前 弘 作 産

21.1.14 三合里収容者 7~500
 21.1.14 三合里収容者 250~350

21.12.中旬
 三合里収容者より加藤中佐以下4000
 途中より石湯温泉作業隊合流
 資料①
 21.12.24 ~ 22.1.1

④

平壤收容人員移動概況



送送受入以前

送送受入以後

20.10.30 552 (別所少佐以下)
 20.11.1 573 (水野大佐以下)
 20.11.28 1000 (平壤400 ≡ 合收移送者600) 資⑦
 21.1 700 (患者)

20.12.10 1000 (産弱者)
 資⑤

平壤市内
 西北側各処
 作業

公主嶺附近
 新泉1隊
 資②

20.8.3.00 (公主嶺隊) 資③
 20.9.11.5.00 (新泉隊) 資⑥

平1隊 資④

平壤市内
 南設隊
 隊

20.9.10 800

平2隊

三合里に集結せる部隊の一
 部は平壤市内及鮮内各地
 にて作業 21.5頃 秋乙收
 12集結

秋乙
 21.4 開設

21.4月中旬 約10,000及患者收容部
 資①③⑦

三合里
 21.4.20

在大幹部要員50

美敷河
 將大入心台
 河 鎮

下士官兵 將校

21.4.42 (三合里隊)

1	1000	三合里 14大
2	4	15
3	6	19
4	1	22
5	7	25
6	5	23
7	3	22, 23
9	4	

20.9 ~ 21.4

通書 訓 領 領
 隊 隊 官 官
 記 記 官 官
 黒池土中依島田加古
 川田尾 藤瀬村 藤 龍
 弘裕清裕邦文新島
 男二美一男一在雄 勉

1	1004	12	1000	23	1060
2	1000	13	4	24	1
3	"	14	"	25	"
4	"	15	"	26	"
5	"	16	"	27	1
6	"	17	1	28	1
7	4	18	1	29	1
8	"	19	1	30	1
9	"	20	1	31	1
10	"	21	1	32	1
11	"	22	"	"	1

	21.5以前	21.5以後
公	(358)	(944)
資	381	969
情	404	1300

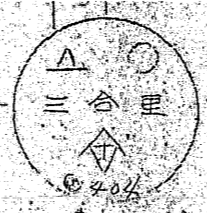
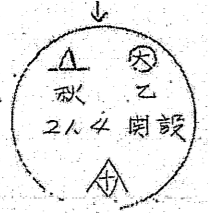
21.4 ~ 21.12
 送通被糧普剛恩資
 長隊隊隊隊隊隊(1)
 岩池山中依島古(2)
 橋日本田藤瀬龍
 利鈴早榮邦文
 生一 一 一

秋乙
 22.1.2 開設
 110

資④ 健康恢復者
 ① 21.12 中旬 200~300 (菅原大佐以下)
 ⑤ (加藤中佐以下 4,000 出発後の残者)

21.6~8 7500~8000
 古河山崎由 送送送者

21.4 ~ 21.12
 振 通 被 糧 普 剛 恩 資
 隊 隊 隊 隊 隊 隊 隊 隊
 長 長 長 長 長 長 長 長
 資①③④
 營 仲 佐 阿 山 田 加
 宗 藤 訶 口 村 藤
 章 裕 鉄 夫 惠 耕 義
 三 郎 一 康 郎 弘 在 産



21.4 中旬 約 10,000 及 患者收容所
費 ① ③ ⑦

作大幹部要員 50

作大入山

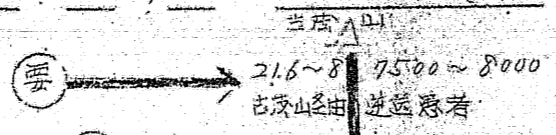
20.10.24	美敷町 秋乙 27 次	2500	興南 經由 延吉 西
10	三合里 1~12 次	12000	
11.12	" 20.21 次	2000	
21.1	" 13.15~18 次	5000	
6	秋乙 1~6.9 次	7000	
7	" 17 次	1000	
8	" 27 次	1000	
20.11.1	三合里 31.32 次	1800	
11.3	" 27 次	1000	
11.末	" 28 次	1000	

21.4. 43 (三合里症)

1	1000	三合里 14 次
2	"	" 15
3	"	" 19
4	"	" 22
5	"	" 25
6	"	" 23
7	"	" 22, 23
9	"	

20.9 ~ 21.4
通習 副 補 官 官
秋記 官 官
黒池土中依真田加古
川田房 藤原村 藤 館
弘 聡 清 啓 邦 文 新 英
勇 二 美 一 男 一 作 雄 勉

1	1004	12	1000	23	1060
2	1000	13	"	24	"
3	"	14	"	25	"
4	"	15	"	26	"
5	"	16	"	27	"
6	"	17	"	28	"
7	"	18	"	29	"
8	"	19	"	30	"
9	"	20	"	31	"
10	"	21	"	32	"
11	"	22	"		"



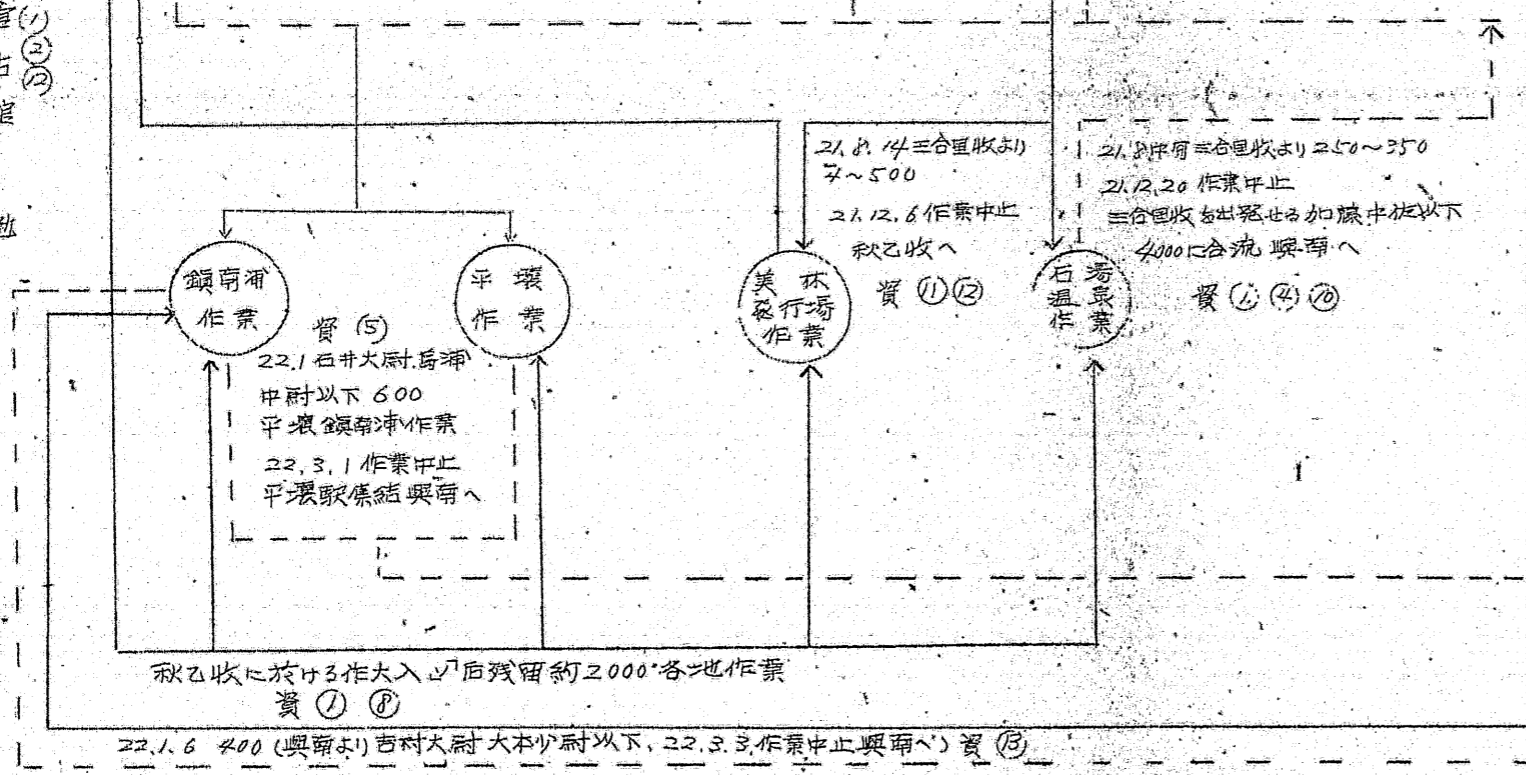
21.4 ~ 21.12
通 被 檢 査 書 國 司
長 長 長 長 長 長 長 長 長
菅 仲 佐 阿 山 田 加
原 藤 部 口 村 藤
重 啓 鉄 惠 耕 義
三 郎 一 康 郎 弘 作 産



資 健康恢復者
① 21.12 中旬 200~300 (菅原大佐以下)
⑤ (加藤中佐以下 4000 出発後の残遺)



21.4 ~ 21.12
通 被 檢 査 書 國 司
長 長 長 長 長 長 長 長
菅 仲 佐 阿 山 田 加
原 藤 部 口 村 藤
重 啓 鉄 惠 耕 義
三 郎 一 康 郎 弘 作 産



帰国のため興南 集結

21.12 中旬
三合里収より加藤中佐以下 4000
途中より石湯温泉作業隊合流
21.12.24 ~ 22.1.1
秋乙収より約 4000
22.1.2
秋乙収より 1400
其 600 平環方面作業へ引返す
(石井大尉 島浦中尉以下)
22.3
石井大尉 島浦中尉以下作業隊
員 600

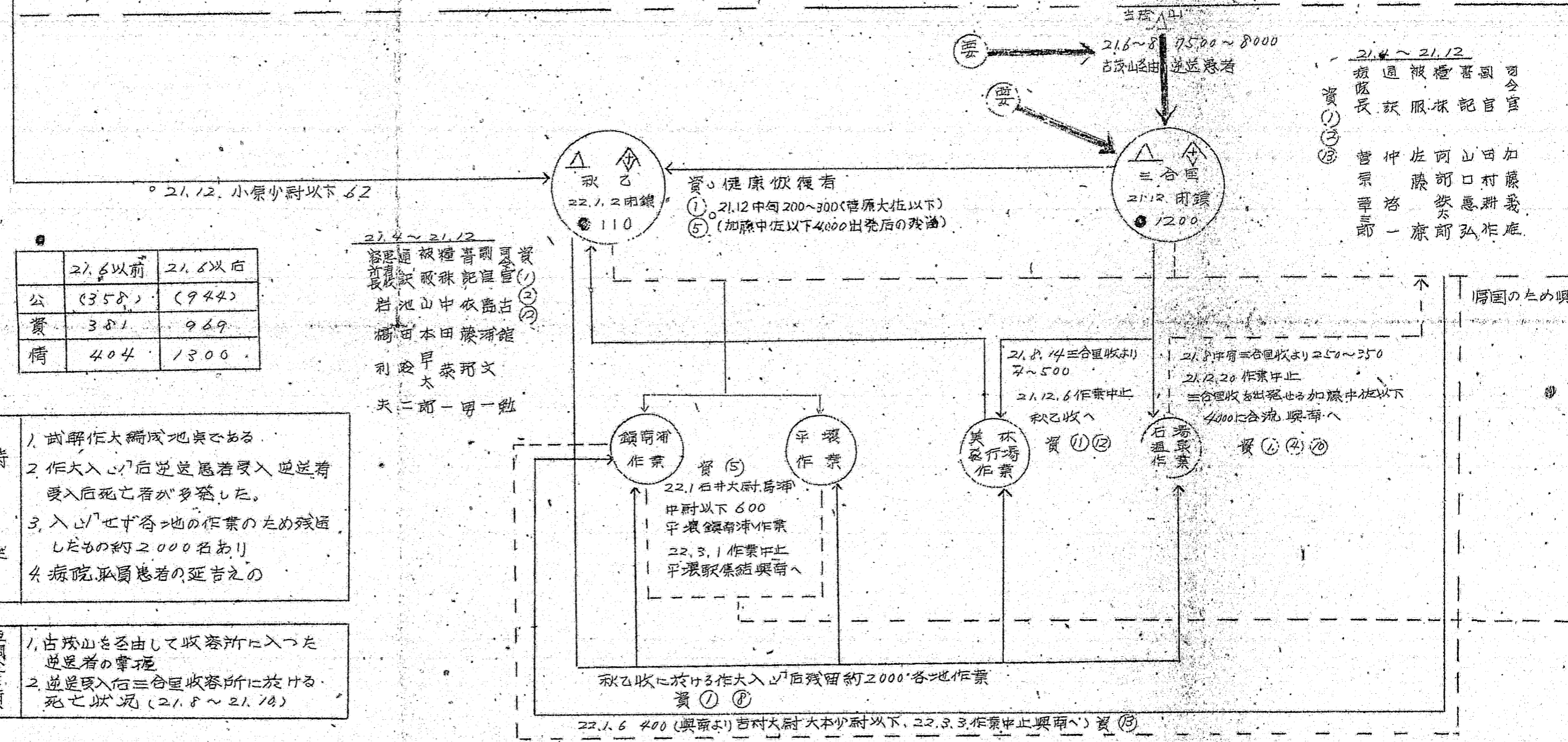
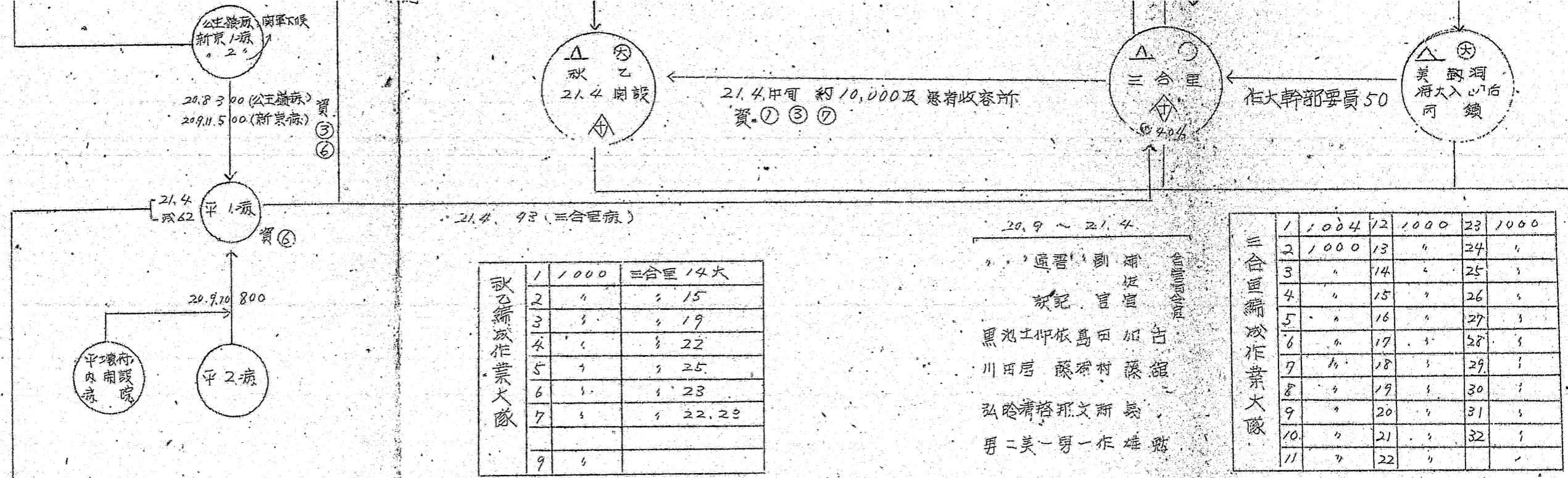
9400

秋乙収に於ける作大入山後残留約 2000 各地作業
費 ① ⑧

22.1.6 400 (興南より) 吉村大尉 大木少尉以下, 22.3.3 作業中止興南へ) 費 ⑬

逆送受入以前

逆送受入以後



特 性

1. 武解作大編成地奥である。
2. 作大入山後逆送患者受入 逆送者受入后死亡者が多発した。
3. 入山せず各地の作業のため残留したものの約2000名あり
4. 病院取戻患者の延命への

要 査 事 項

1. 古茂山を由して收容所に入った逆送者の掌握
2. 逆送受入后三合里收容所に於ける死亡状況 (21.8 ~ 21.18)

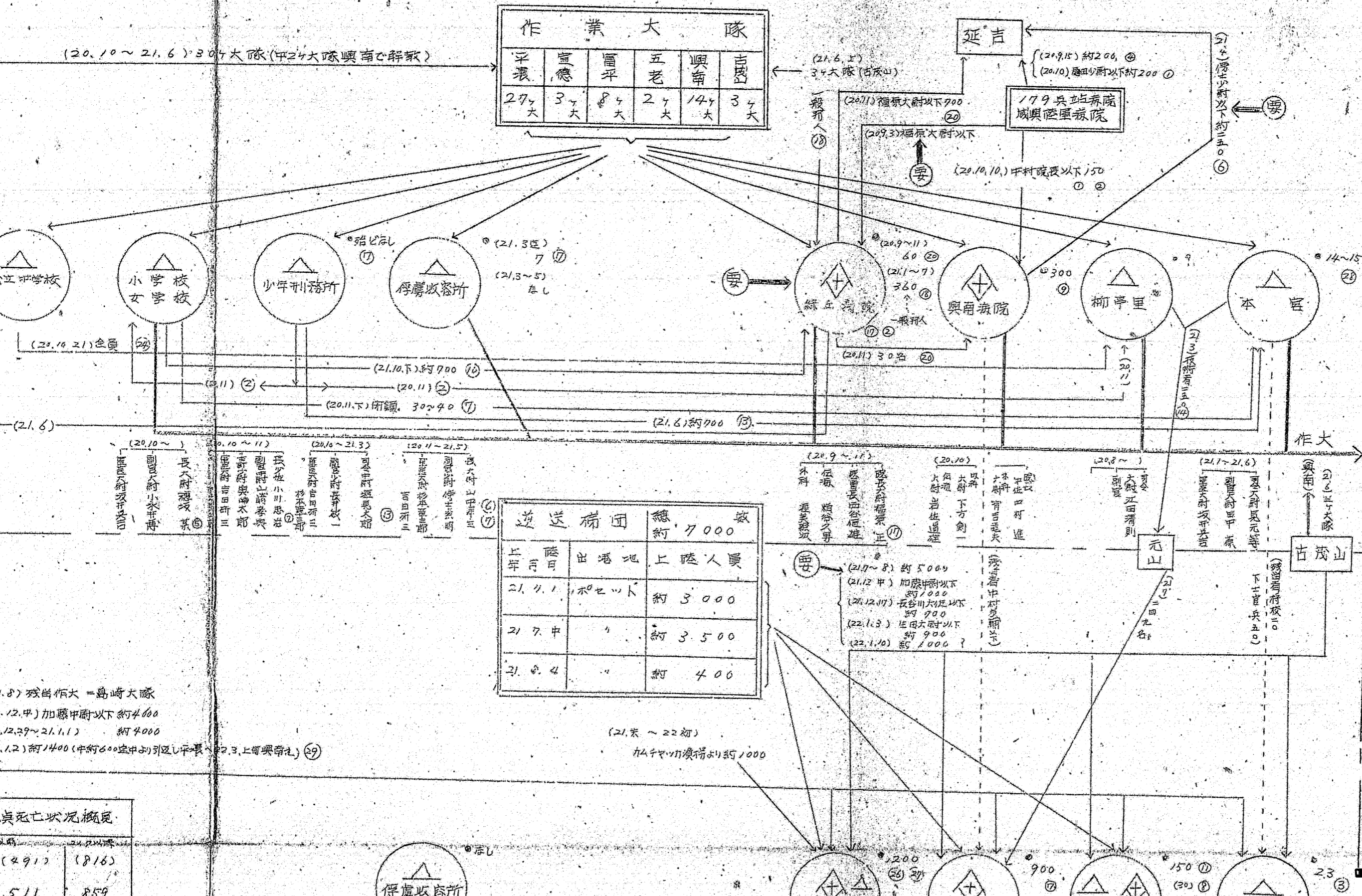
中共地域資料概況好資料保有者名録																		
資	料	番	号	資	料	番	号	地	名	期	帯	向	所	階	現	所	氏	名
4	22	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4				
14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1					
													平					
22	20	22			21	20	22	20	22	20	21	21	22	20	22	20		
1	9	3	5		12	8	4	9	1	8	1	8	1	9	1	9		
司	平				2	野	二	平	195		1	平	38	機	二	新	工	平
	師				6	野	二	平	飛		陸	療	3	3	陸	京	補	療
					連	高	陸	療	大		病	療	連	連	病	隊	隊	師
						連	病	療	大									航
大	少	幹	上	一	軍	中	中	大	中	兵	大	少	少				航	平
医	尉	候	等	等	曹	尉	佐	尉	尉	長	佐	尉	尉				空	環
佐			兵	兵													下	環
[REDACTED SECTION]																		
菅	大	豊	井	野	佐	山	加	今	島	駒	岩	中	古	氏				
原	本	田	上	次	古	口	藤	村	浦	田	橋	川	館	名				
章	明	恭	良	光	長	茂	義	忍	文	岡	利	俊	一	勉				
三		一	助	雄	作	男	雄		一	輔	夫	二	勉	名				
郎																		

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">2</td> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">1</td> </tr> <tr> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">4</td> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">3</td> </tr> </table>	2	1	4	3
2	1				
4	3				
分割撮影 した理由	A3版以上のため				
文書等名	興南各収容所人員移動概況				
上記のとおり分割撮影したことを証明する。					

興南各收容所人員移動概況

0027
0028
0029
0030



興南各由入り作大

出(回)陸日	大隊数	人数
20.9.	5	約5000
20.10	18	約18000
20.12	8	約8000
21.1	5	約5000
21.6	16	約16000
21.7	4	約4000
陸	1	約1000
總数		約56000

8) 残存作大 = 島崎大隊
 12.甲) 加藤中尉以下約4000
 12.29 ~ 21.1.1) 約4000
 12) 約1400 (中約600空軍) 引返し平表 (21.3.上可興南に)

死亡状況概況

(49)	(816)
511	859

5

興南各收容所人員移動概況

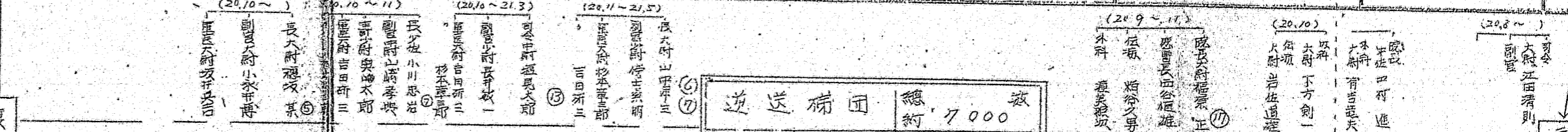
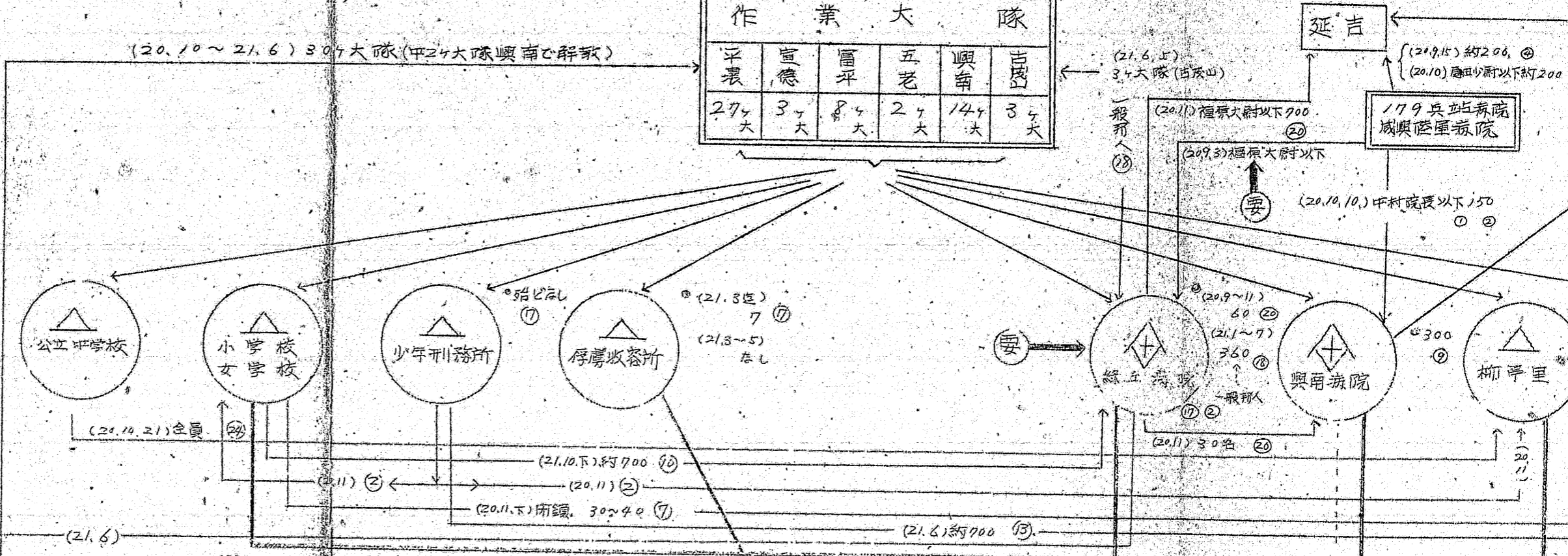
送送受入前

送送受入后

帰還

一般邦人の引揚と共に帰還

作業大隊					
平壤	宣徳	富平	五老	興南	吉豊
27 <small>大</small>	3 <small>大</small>	8 <small>大</small>	2 <small>大</small>	14 <small>大</small>	3 <small>大</small>



興南各港正式遷送

船名 (出港地)	出港年月日	乗船人員
永緑丸 (興南)	21.12.16	約 2000
大瑞丸 (興南)	21.12.16	約 3000
反日丸 (興南)	21.12.18	約 3000
宗盛丸 (元山)	21.12.21	約 4500
第一大海丸 (興南)	21.12.21	約 2000
大瑞丸 (興南)	21.12.21	約 2000
信洋丸 (興南)	21.12.21	約 2000
大瑞丸 (興南)	21.12.21	約 2100
辰日丸 (興南)	22.3.22	約 2000
大守丸		

(21.8) 残出作大 = 島崎大隊
 (21.12.中) 加藤中尉以下 約 4000
 (21.12.29~21.1.1) 約 4000
 (21.12) 約 1400 (中約 600 室中引返し平壤へ 2.3.上可興南丸) (29)

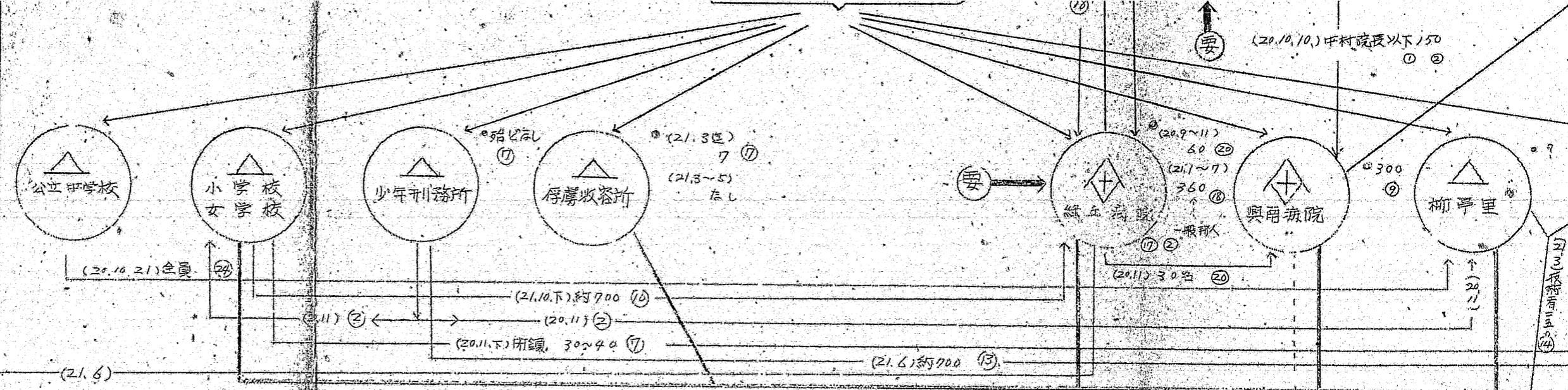
逆送帰団			総計
上陸年月	出港地	上陸人員	約 7000
21.11.1	ホセムト	約 3000	
21.7.中	"	約 3500	
21.8.4	"	約 400	

興南地員死亡状況概見

公	(291)	(816)
資	511	1859

帰還

送受入前



一般邦人の引揚と共に帰還

興南(山)正式遷送

船名	出港年月日	乗船人員
永緑丸 (興南)	21.12.16	約 2000
大瑞丸 (興南)	21.12.16	約 3000
辰日丸 (興南)	21.12.18	約 3000
宗峯丸 (元山)	21.12.21	約 4500
第一大海丸 (興南)	21.12.21	約 2000
大瑞丸 (興南)	21.12.21	約 2000
信洋丸 (興南)	21.12.21	約 2000
大浦丸 (興南)	22.1.3	約 2100
辰日丸 (興南)	22.3.22	約 2000
大安丸 (興南)	22.3.22	約 5000
山澄丸 (興南)	22.7.3	約 500
宗谷丸 (興南)	22.11.8	約 550
その他	23.7.4	約 1300
総数		約 30000

上記宗谷丸に約1800信洋丸に約700、山澄以降は殆ど一般邦人で其の数は約8000他は全員軍人である。

逆送受入后

(21.8) 残出作大 - 島崎大隊
 (21.12.中) 加藤中尉以下 約4000
 (21.12.29~21.1.1) 約4000
 (21.1.2) 約1400 (中約600位中引返し平塚へ2.3.上旬興南丸) (29)

興南地真死亡状況概見

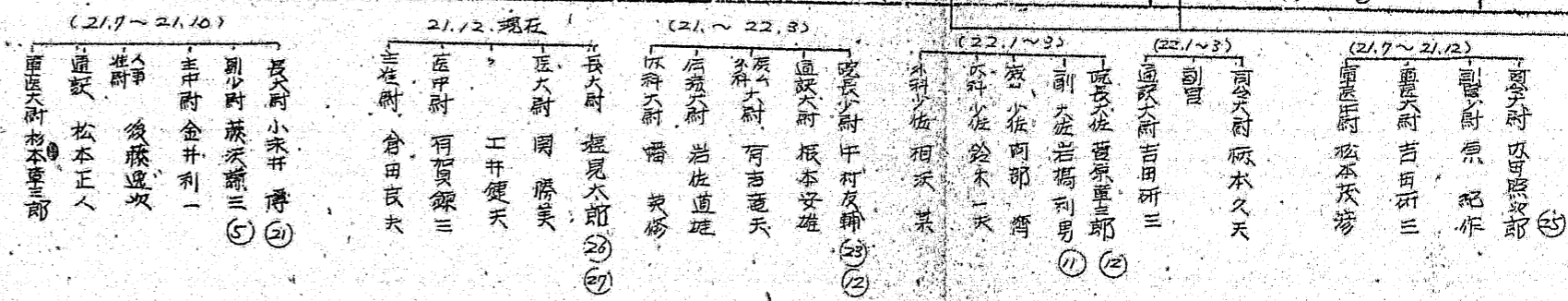
	21.6以前	21.7以降
公	(491)	(816)
資	511	859
情	500	2600

帰還 (21.12 ~ 22.3)

特性	要調査事項
1 北群各地、編隊作大の入心時迄の人員 2 作大降参し患者の収容 (興南病院) 3 逆送患者の受入后死亡者多数 4 単直醫院 (緑丘療養所) の設置	1 逆送柳町の事情 (興南直送、古辰山経由) 2 病院と延吉との患者の交流状況 3 興南病院、緑丘療養所の死亡状況 (特に逆送受け入れ后) 4 最終引揚時 (22.3) 残留重症の状況

逆送帰団 総約 7000 数

上陸年月	出港地	上陸人員
21.7.1	ホセット	約 3000
21.7.中		約 3500
21.8.4		約 400



中共地域資料概況好資料保有者名簿

資 料 番 号	資 料 保 有 者 番 号	地 点	滞 留 期 日	所 属 階 級	現 在 籍 地	氏 名
5	5	興南	20 11 3	兵一七九	(本)	大飼 証一
5	2	"	"	兵長	往	菅原 静三郎
5	3	"	20 8 12	兵一七九	地	高橋 淳二
5	4	"	20 8 8	兵一七九	所	酒井 要作
5	5	"	20 9 3	兵一七九		坂井 兵吉
5	6	"	20 9 4	兵一七九		傍士 素明
5	7	"	20 8 1	兵一七九		野町 照三郎
5	8	"	20 1 4	兵一七九		(百姓杉本)
5	9	"	20 9 3	兵一七九		菅原 章三郎
5	10	"	20 9 3	兵一七九		中村 伊知男
5	11	"	22 1 3	兵一七九		菅原 章三郎
5	12	"	22 1 3	兵一七九		菅原 章三郎
5	13	"	21 10 3	兵一七九		菅原 章三郎
5	14	"	21 1 8	兵一七九		菅原 章三郎
5	15	"	20 8 7	兵一七九		菅原 章三郎
5	16	"	21 8 9	兵一七九		菅原 章三郎
5	17	"	20 8 3	兵一七九		菅原 章三郎
5	18	"	21 1 7	兵一七九		菅原 章三郎
5	19	"	20 10 3	兵一七九		菅原 章三郎
5	20	"	20 9 11	兵一七九		菅原 章三郎

9)

0031

											5	5	5	5	5	5	5	5	番概資		
											29	28	27	26	25	24	23	22	21	号况精	
											"	"	"	"	"	"	"	岷南	番保資		
											22 22/3	20 22/2	21 22/1	21 22/8	21 22/12	20 21/11	20 22/10	22 22/4	21 21/7	号有精	
											航空 六隊	平 二補	建設 隊	衛 軍				兵 一七 病九	四 三九 四	所 屬	
											少 佐	大 尉	准 尉	兵 長	大 尉			少 尉	少 医 佐	大 尉	階 級
											[REDACTED]								現 (本 籍 住 地) 所		
											古 館 勉	見 元 等	倉 田 良 夫	前 田 正 直	内 田 巖 次 郎	鈴 木 由 雄	中 村 友 輔	阿 部 齊	小 永 井 博	氏 名	

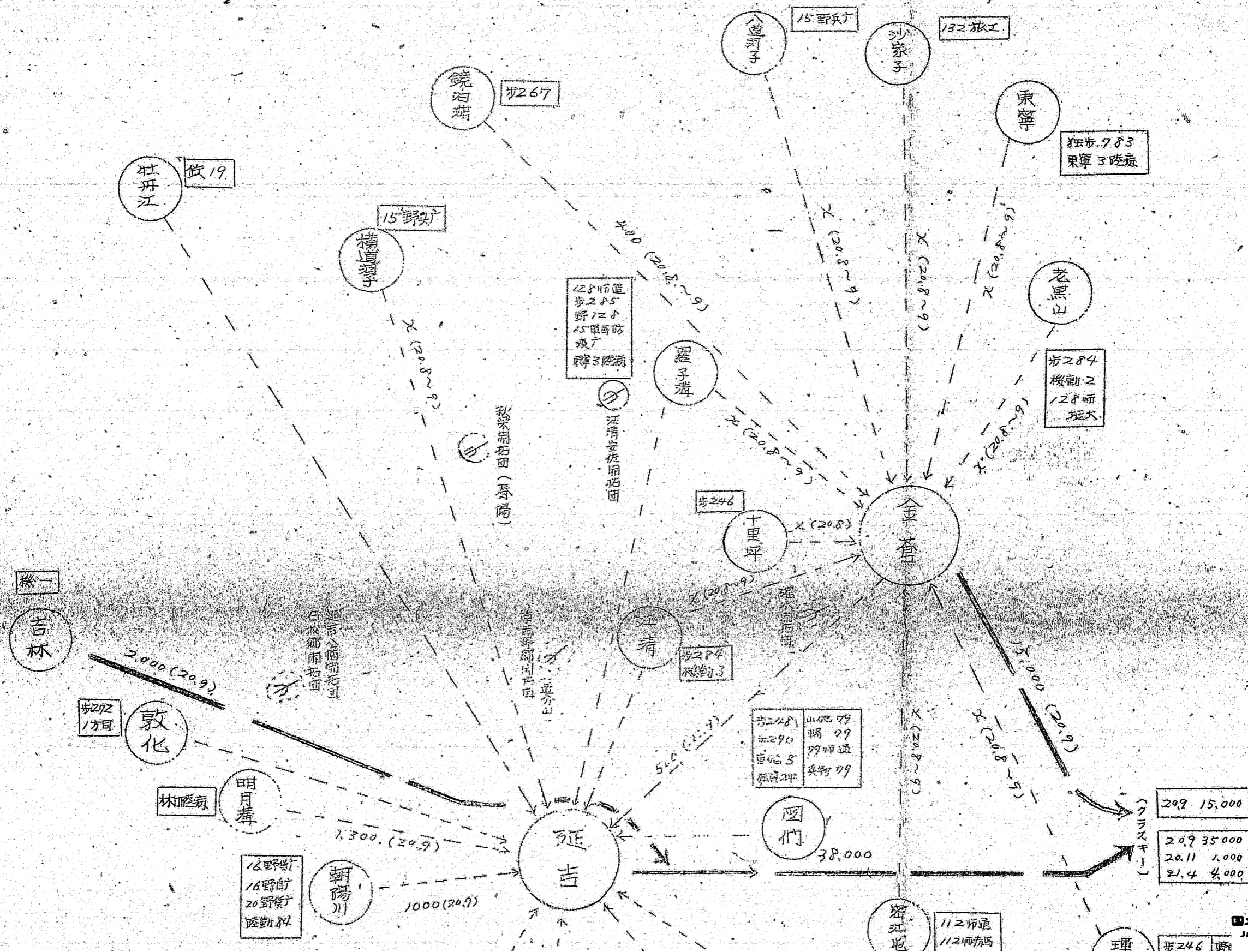
(10)

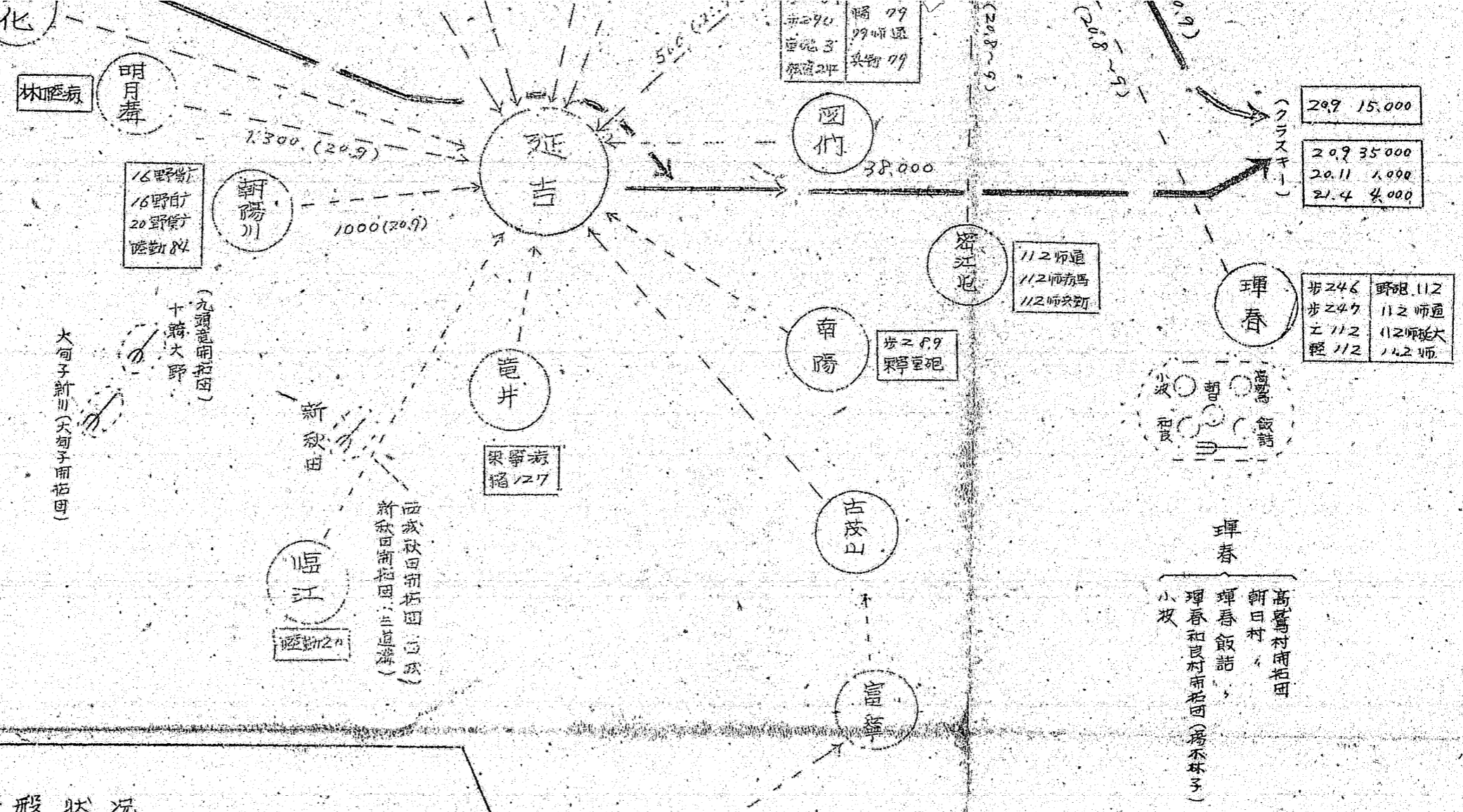
0032

分割撮影ターゲット

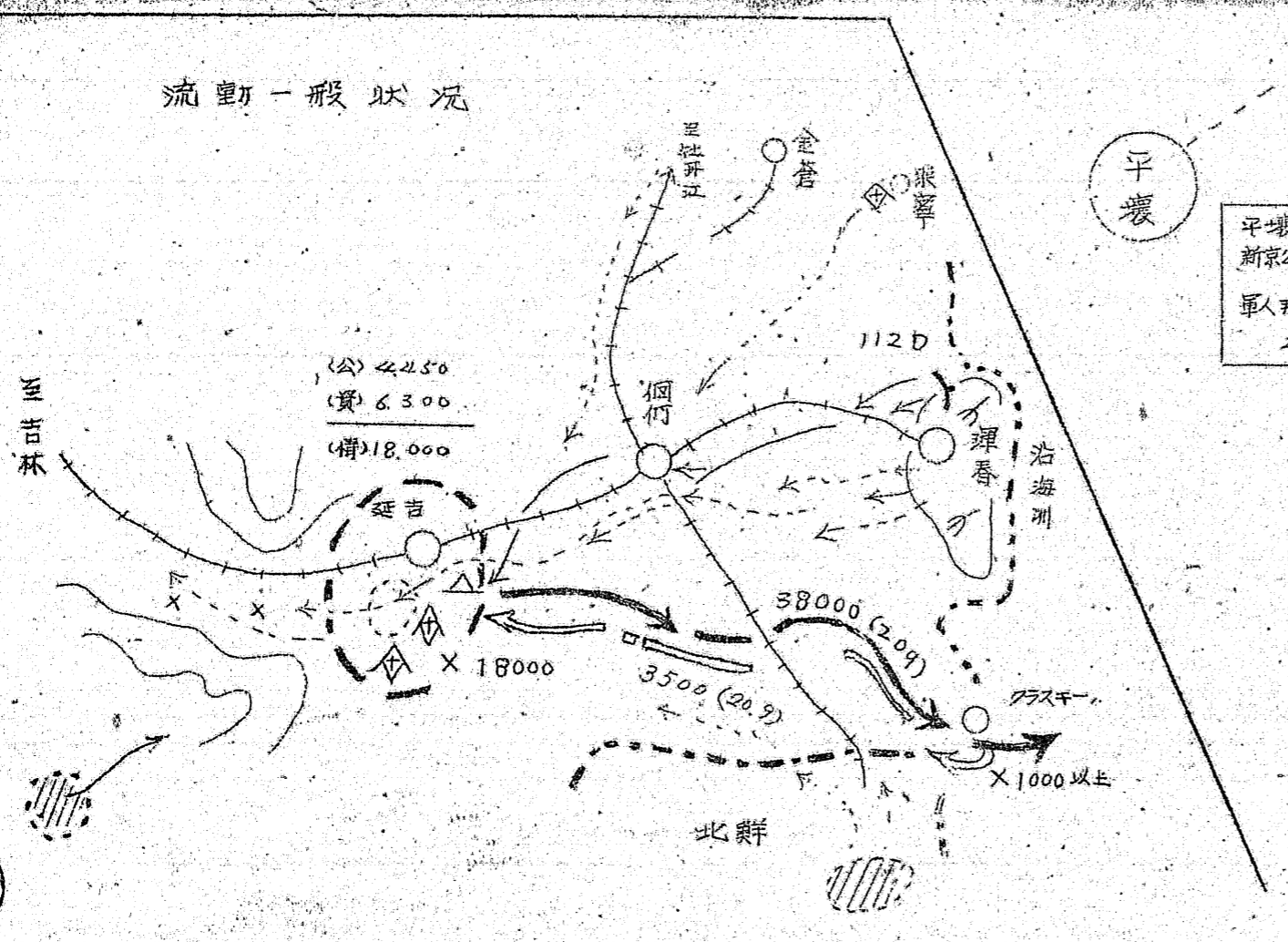
分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="810 533 1046 976"><tr><td data-bbox="810 533 1046 757">1</td></tr><tr><td data-bbox="810 757 1046 976">2</td></tr></table>	1	2
1			
2			
分割撮影 した理由	A3版以上のため		
文書等名	間島地区兵団職域団隊の停戦迄 の流動状況		
上記のとおり分割撮影したことを証明する。			

間島地区兵団職域団体の停戦後の流動状況





流動一般状況

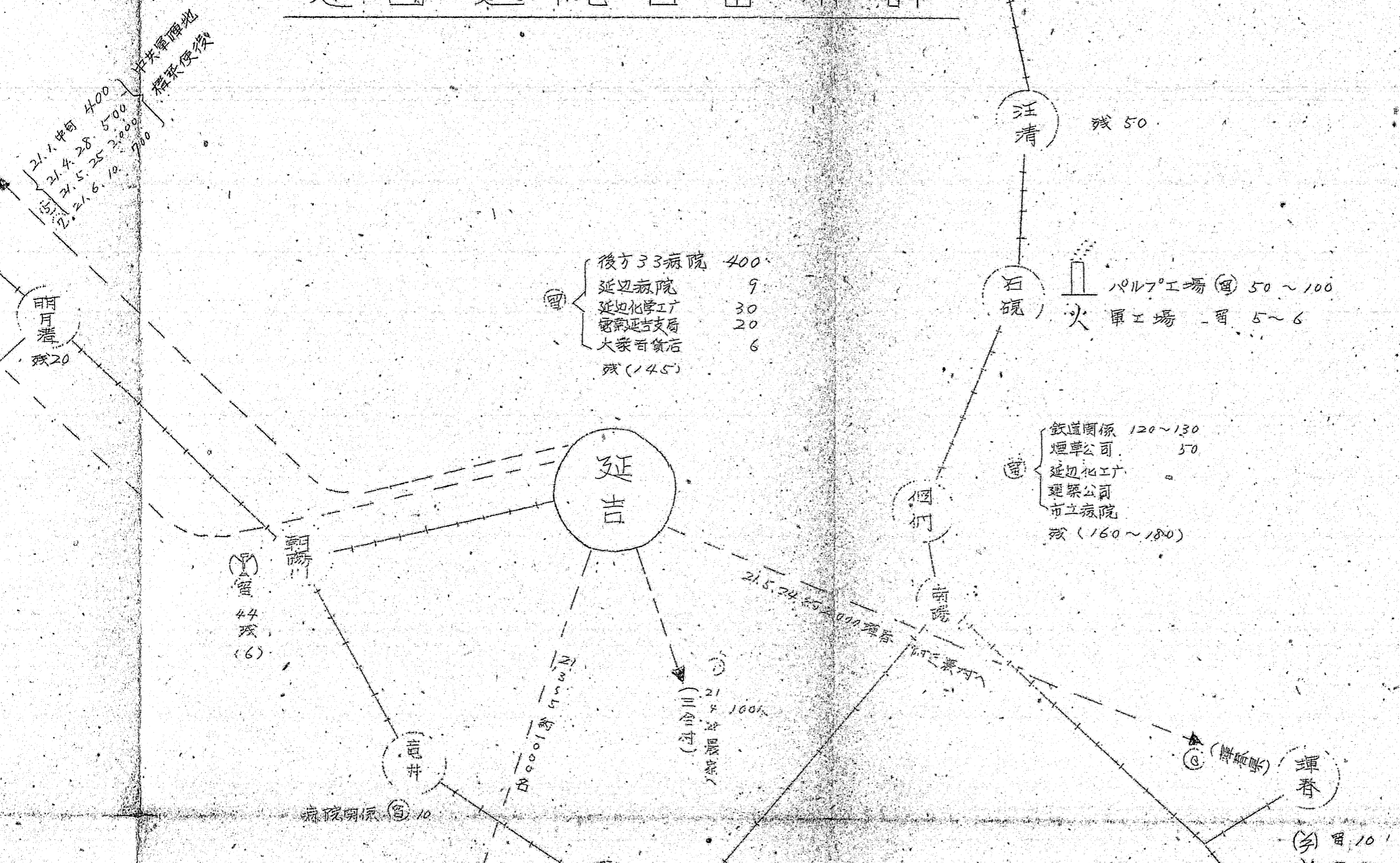


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="715 548 1177 990"><tr><td data-bbox="715 548 948 766">2</td><td data-bbox="948 548 1177 766">1</td></tr><tr><td data-bbox="715 766 948 990">4</td><td data-bbox="948 766 1177 990">3</td></tr></table>	2	1	4	3
2	1				
4	3				
分割撮影 した理由	A3版以上のため				
文書等名	延吉退院者留用群				
上記のとおり分割撮影したことを証明する。					

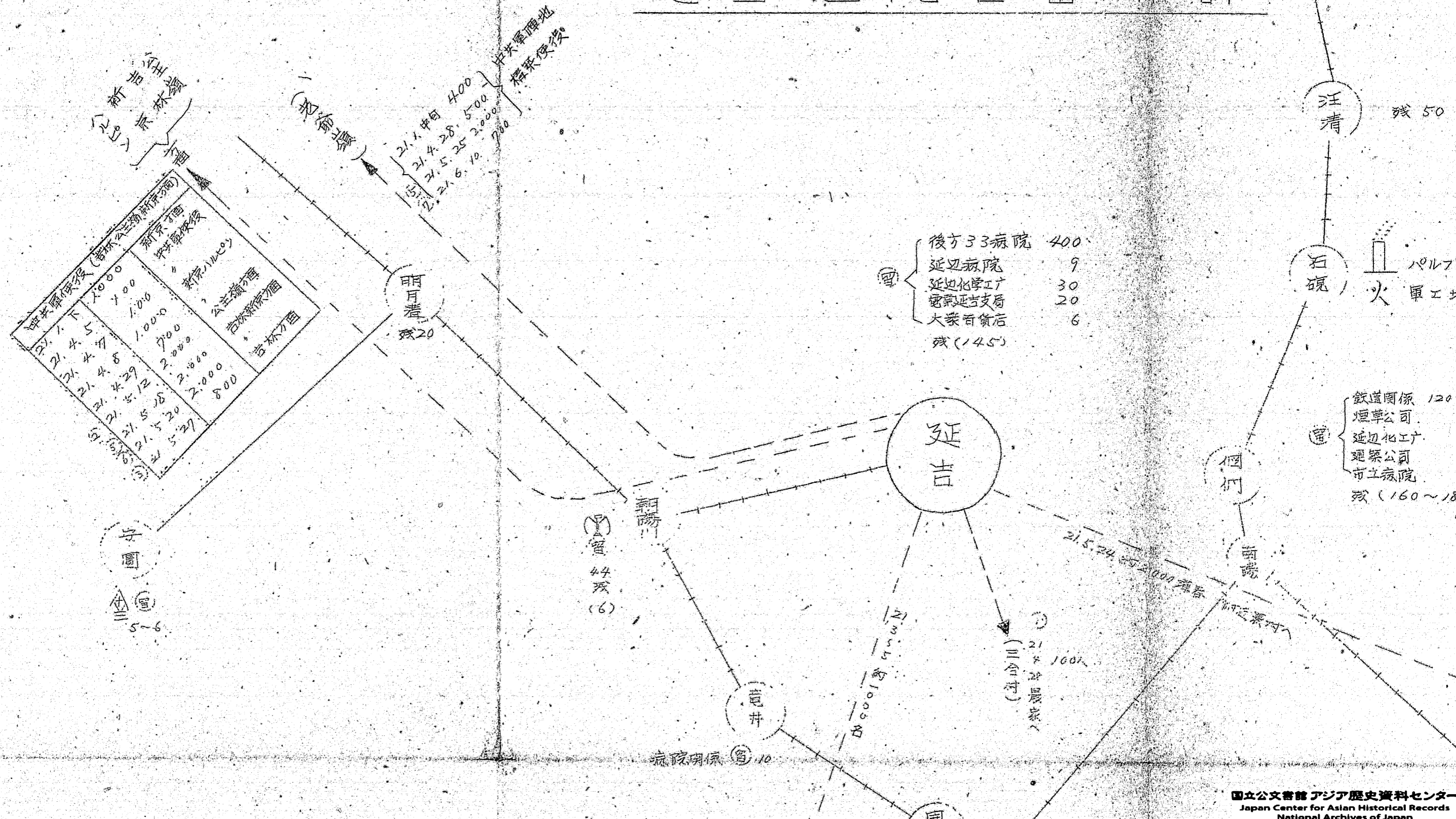
0035
0036
0037
0038

延吉退院者留用群



7

延吉退院者留用群



400
 20
 25
 500
 2000
 700

汪清 残 50

- 後方33病院 400
- 延辺病院 9
- 延辺化学工場 30
- 密蒙延吉支局 20
- 大衆百貨店 6
- 残(145)

石碓
 パルプ工場 (留) 50 ~ 100
 火軍工場 留 5 ~ 6

- 鉄道関係 120 ~ 130
- 煙草公司 30
- 延辺化学工場
- 建築公司
- 市立病院
- 残(160 ~ 180)

延吉

個們

南陽

朝陽
 (留) 44
 残(6)

竜井

病院関係 (留) 10

21.5.24 約 2000 強者
 (三合街) 100人
 21.5.24 強者

甲山屯

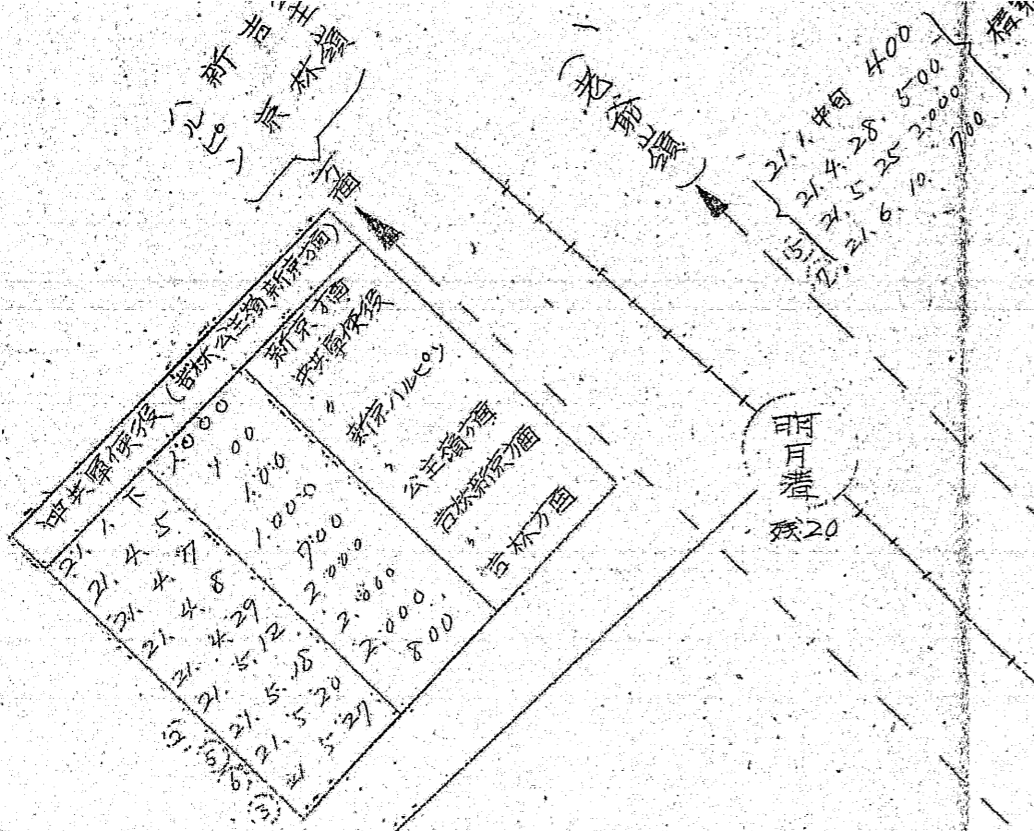
東北製紙ルプ 留 20

和意

父 (留) 120

輝春
 (留) 10
 火 留 40

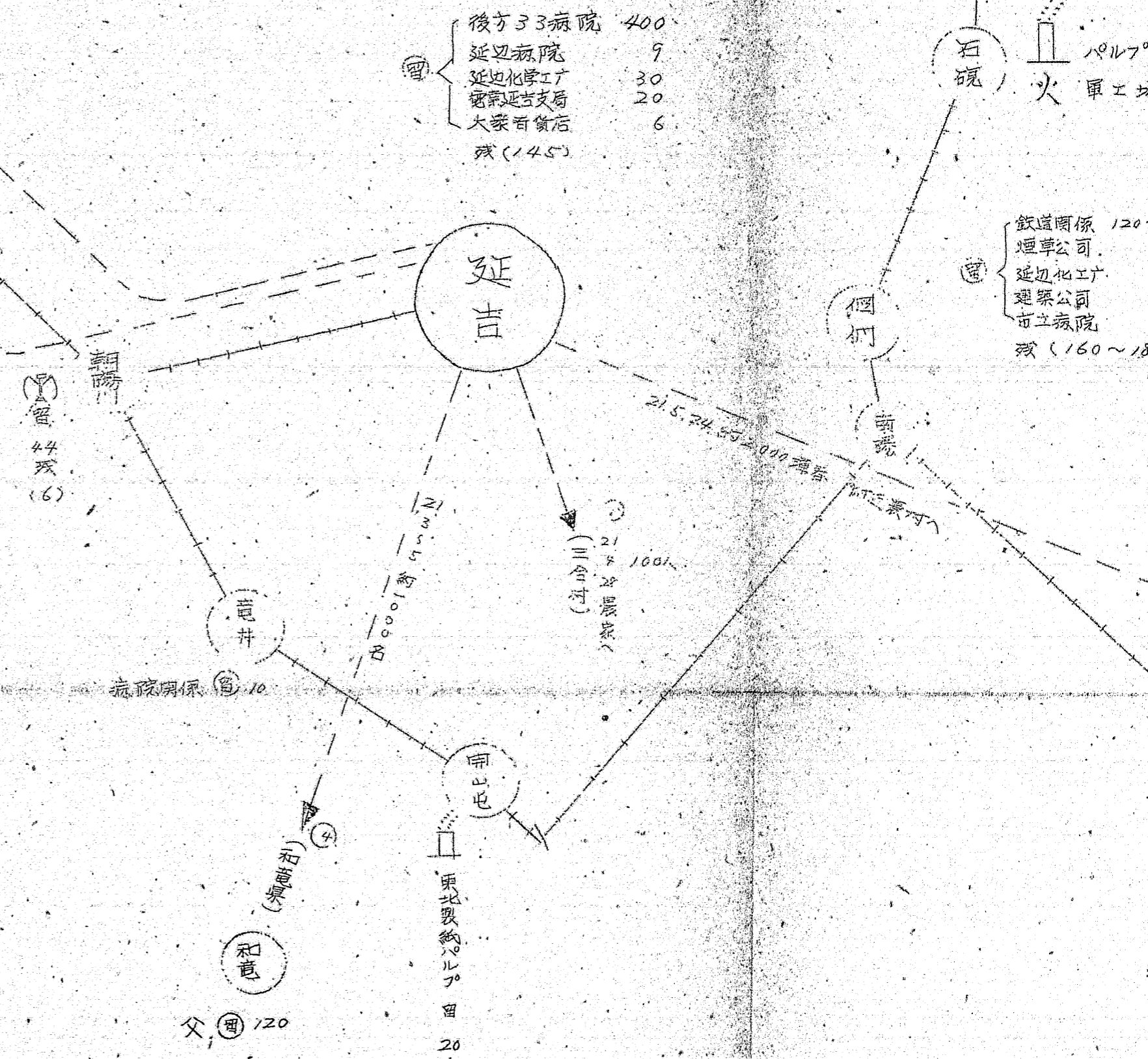
21.3 (卒場石、叶) 輝春県
 21.4.30 (塚原安雄) 輝春県



1	21.1.4.400	1000
2	21.4.28.500	1000
3	21.5.25.2000	2000
4	21.6.10.200	800
5	21.1.4.400	1000
6	21.4.28.500	1000
7	21.5.25.2000	2000
8	21.6.10.200	800
9	21.1.4.400	1000
10	21.4.28.500	1000
11	21.5.25.2000	2000
12	21.6.10.200	800
13	21.1.4.400	1000
14	21.4.28.500	1000
15	21.5.25.2000	2000
16	21.6.10.200	800
17	21.1.4.400	1000
18	21.4.28.500	1000
19	21.5.25.2000	2000
20	21.6.10.200	800

要調査事項

- (1) 留用年月日、留用先入員
- (2) どの病院、収容所から出たか
- (3) 指揮者或は代表者
- (4) 好資料保有者



中共地域資料概況好資料所有者名誌

資 料 概 況 番 号	資 料 保 有 者 番 号	地 点	期 日	所 属	階 級	現 在 住 籍 地	氏 名
7	7	(老翁)	20/230	陸羅南	上		千葉幸也
7	6	(輝春)	209/15	不明	不明		大西源吉
7	5	(吉本)	209	一衰病	兵工長		遠海林定栄
7	4	(和意)	不明	野重	不明		住本良二
7	3	(吉本)	2011	涉一補	軍幹曹候		中島進
7	2	(公全)	201123	平二補	曹		柏田長治
7	1	(三合村)	201113 2129 2113	国第一守	一		沢頭英

(15)

分割撮影ターゲット

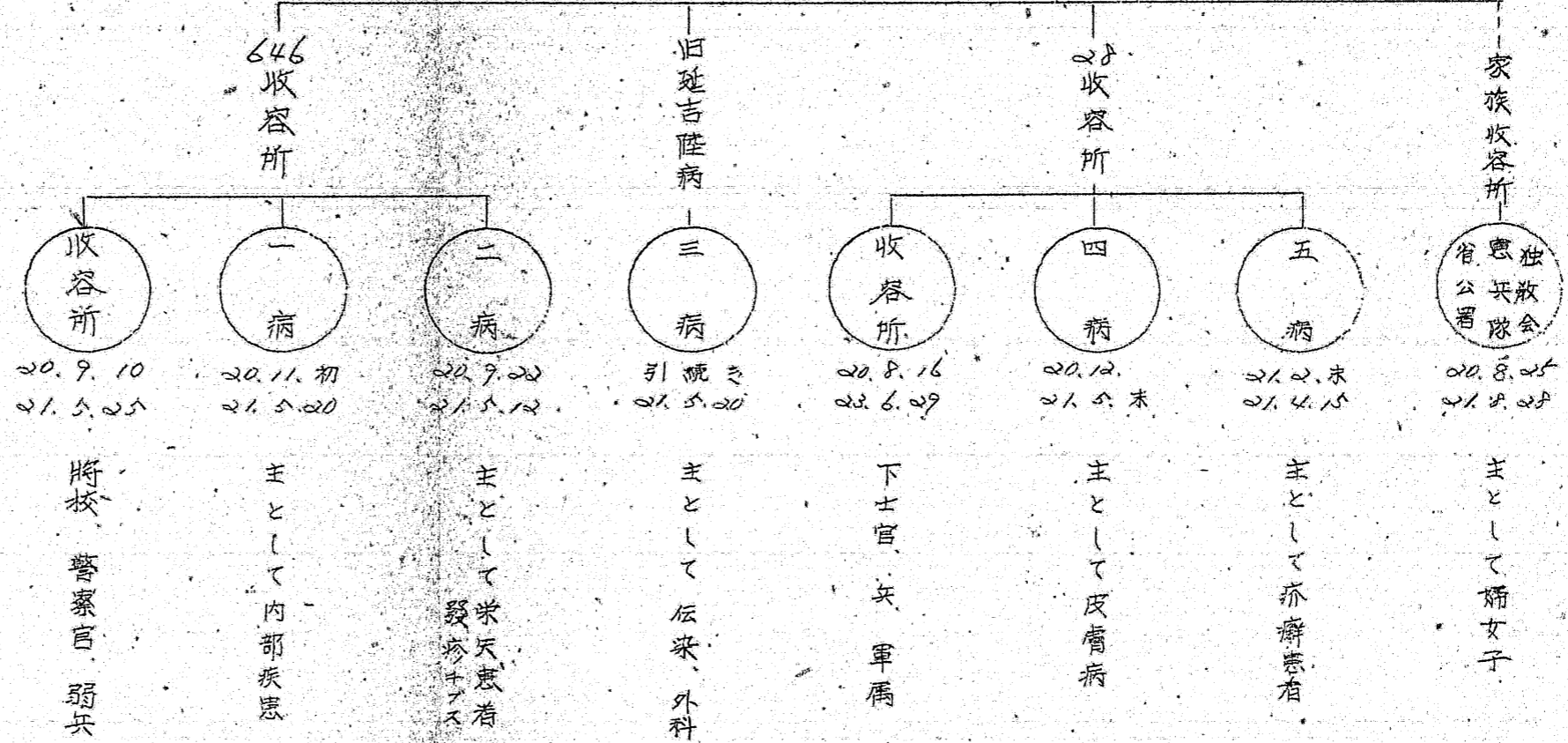
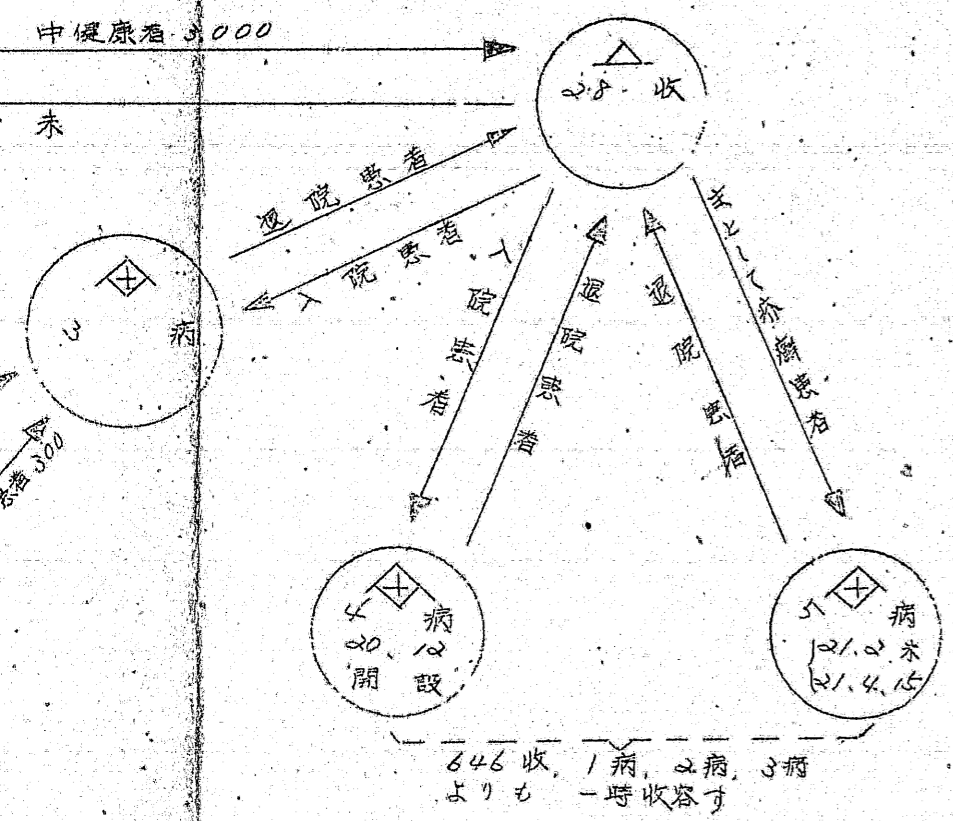
分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">2</td> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">1</td> </tr> <tr> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">4</td> <td style="width: 50px; height: 50px; text-align: center; vertical-align: middle;">3</td> </tr> </table>	2	1	4	3
2	1				
4	3				
分割撮影 した理由	A3版以上のため				
文書等名	延吉収容所病院相互間の時期別 相互関連特性				
上記のとおり分割撮影したことを証明する。					

0040
0041
0042
0043

延吉收容所病院相互間の時期別相互関連特性

延吉收容所

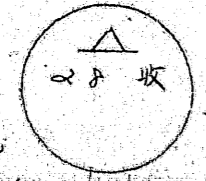
(20.12 ~ 21.4)



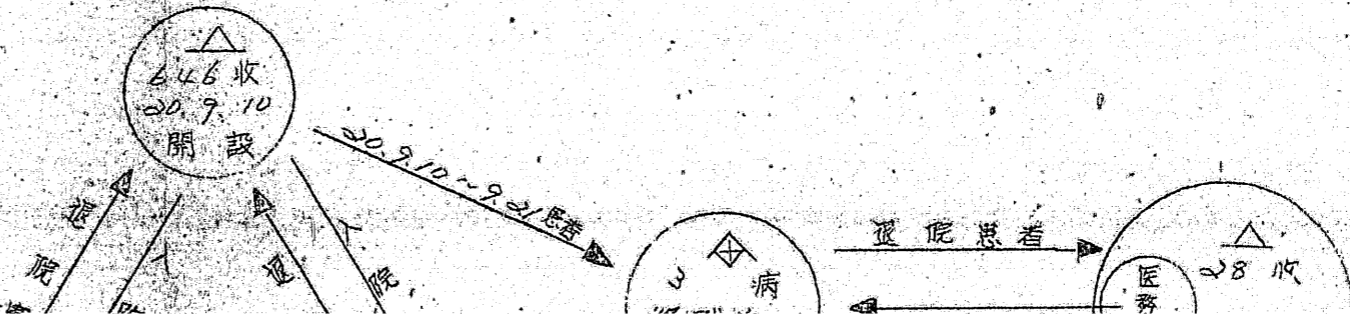
開設初期 (20.8 ~ 20.11)

期 (21.5)

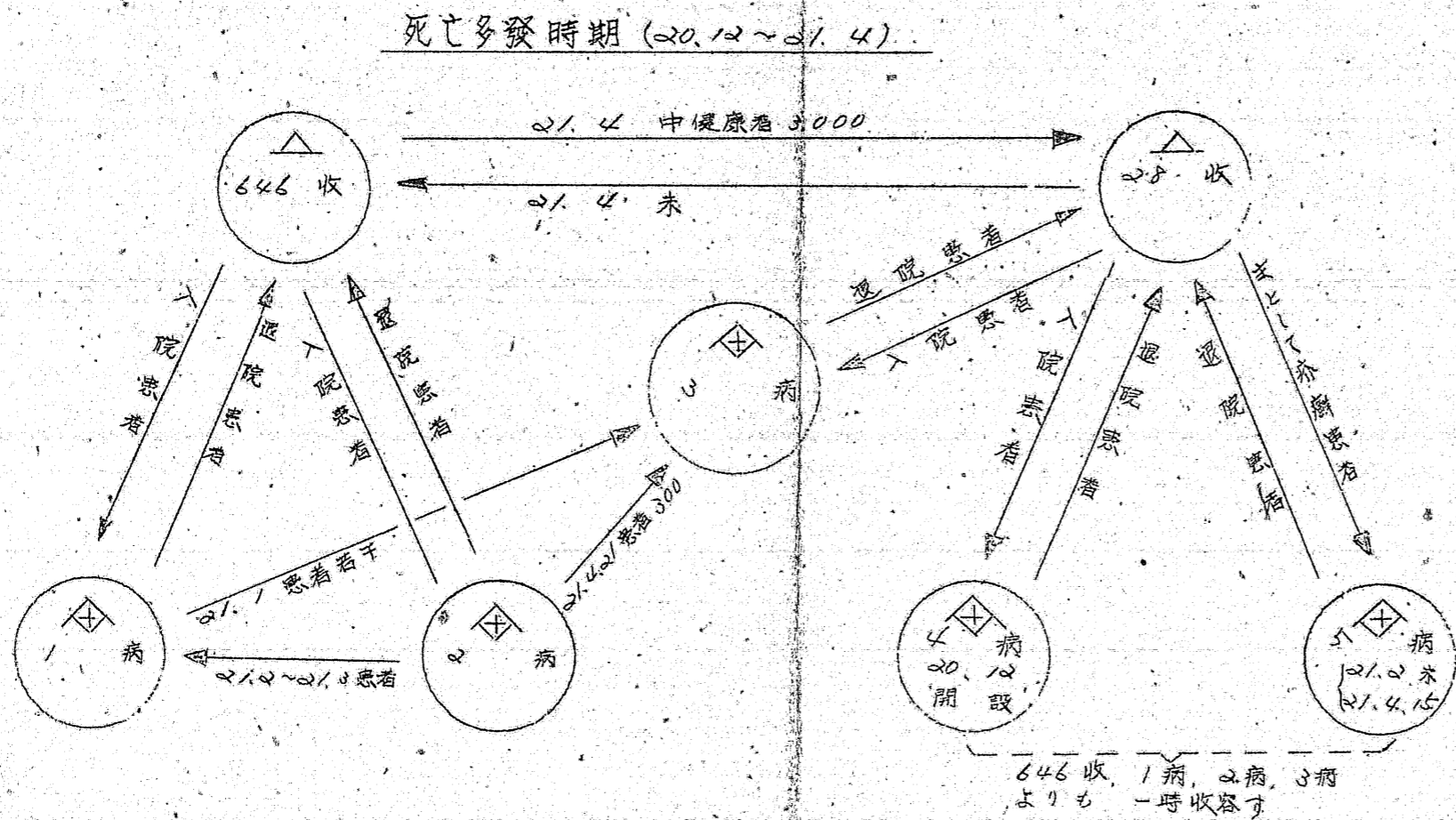
同鎖のため合流



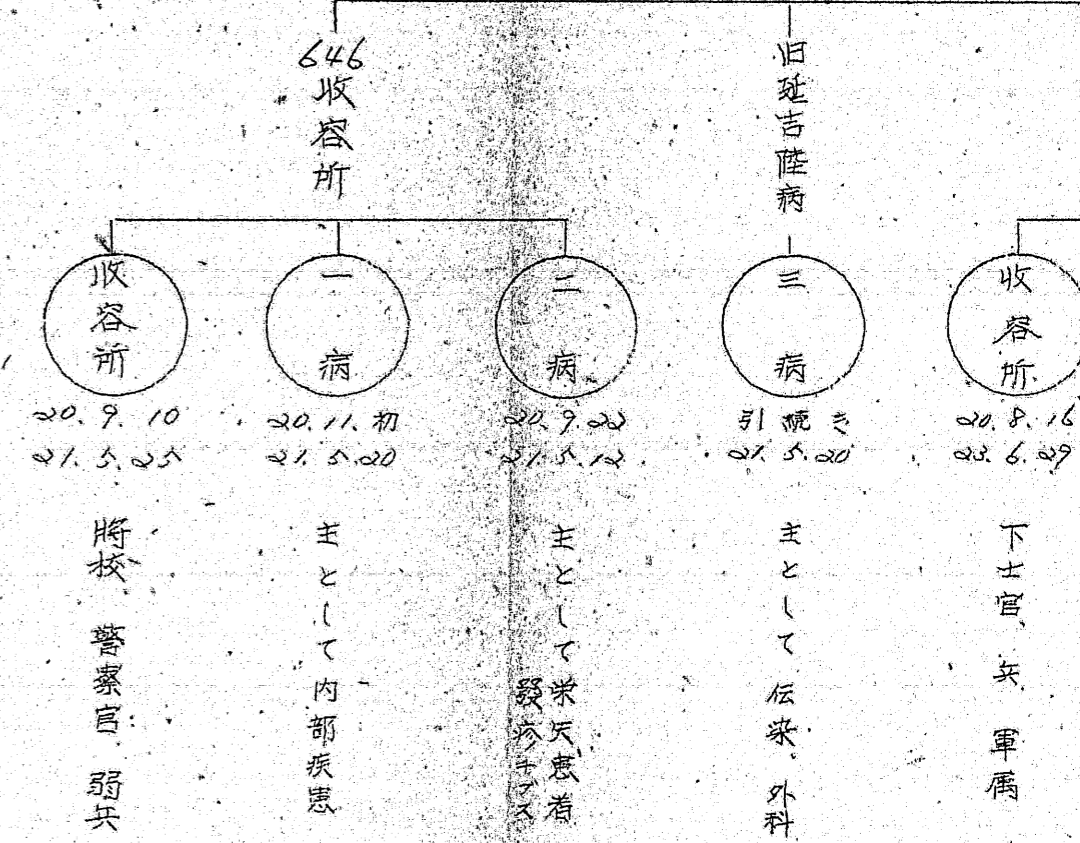
21.5.未以降は合体となり弱病者の収容に当り



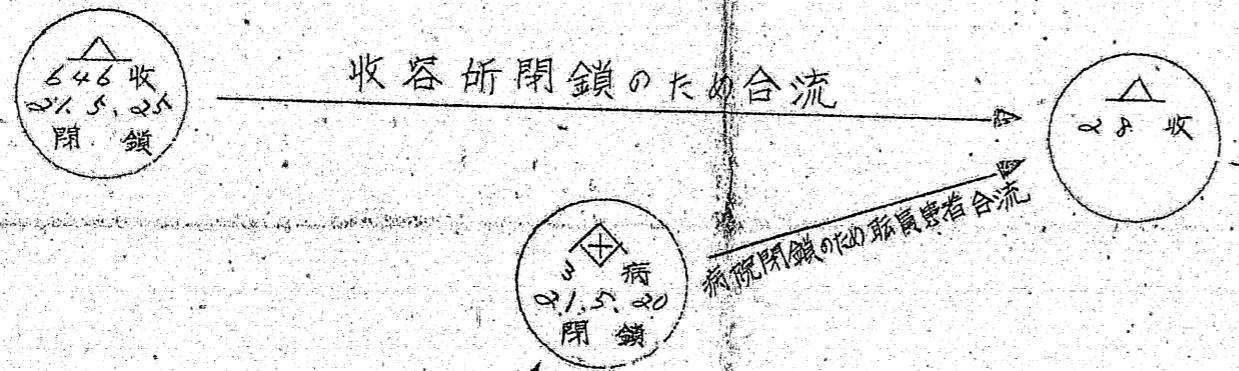
延吉收容所病院相互間の時期別相互関連特性



延吉收容所

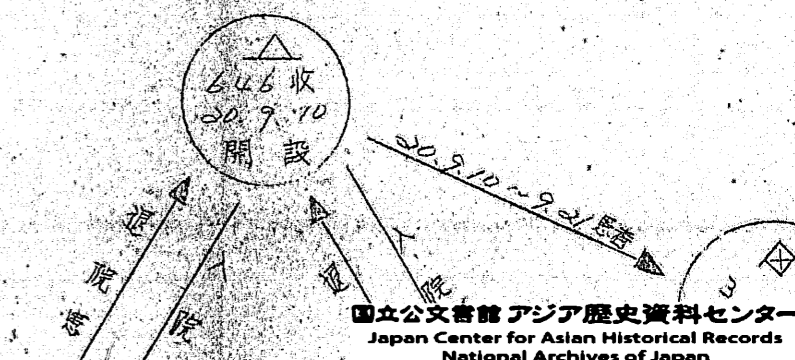


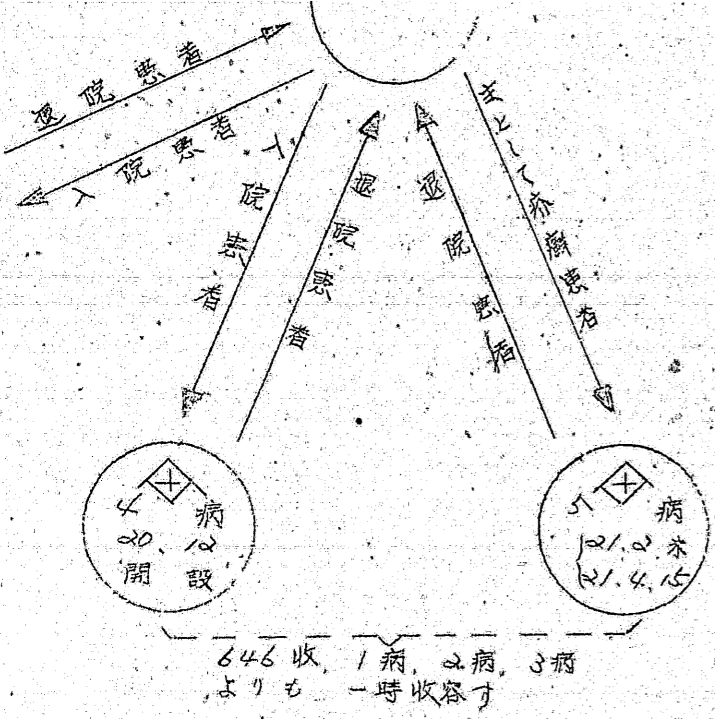
閉鎖時期 (21.5)



21.5 未以降は
合体となり病弱者の
收容に当り
21.6 未に閉鎖

開設初期

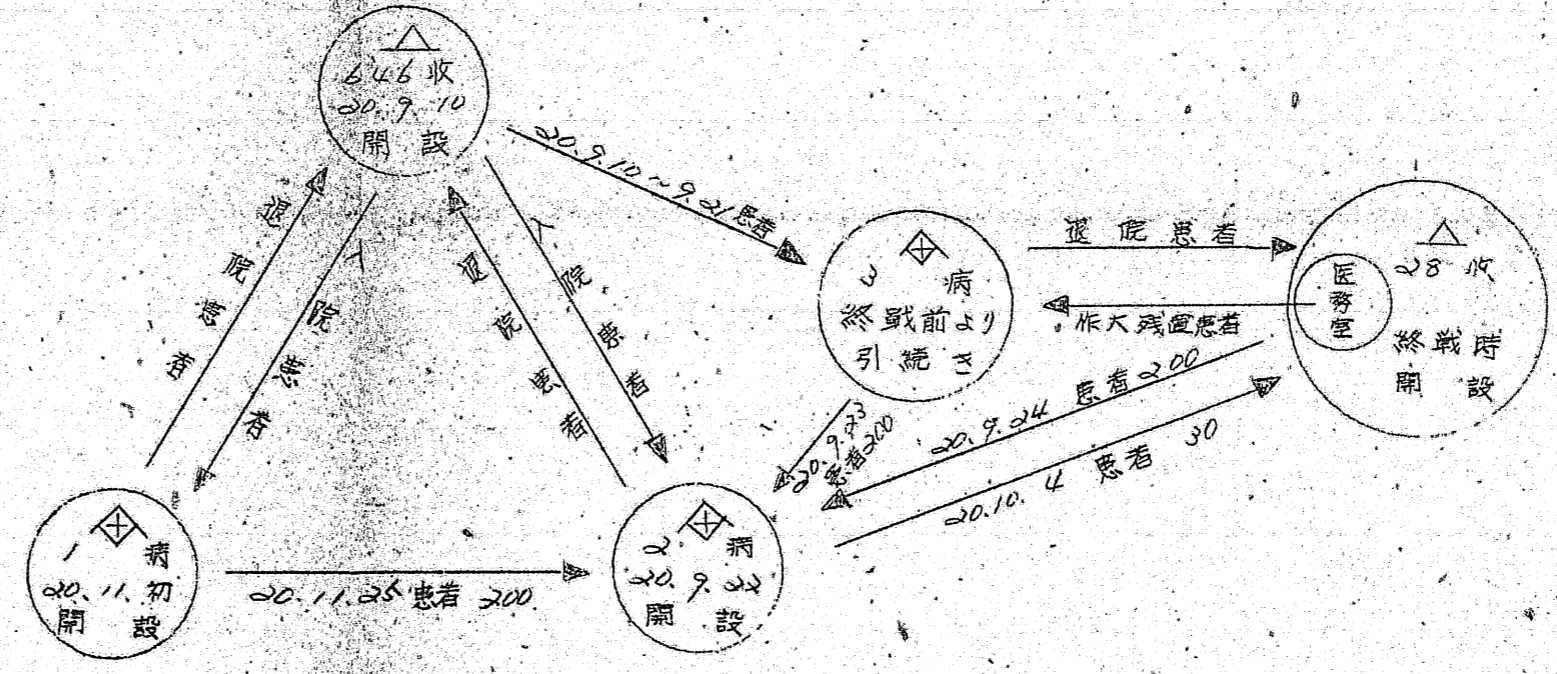
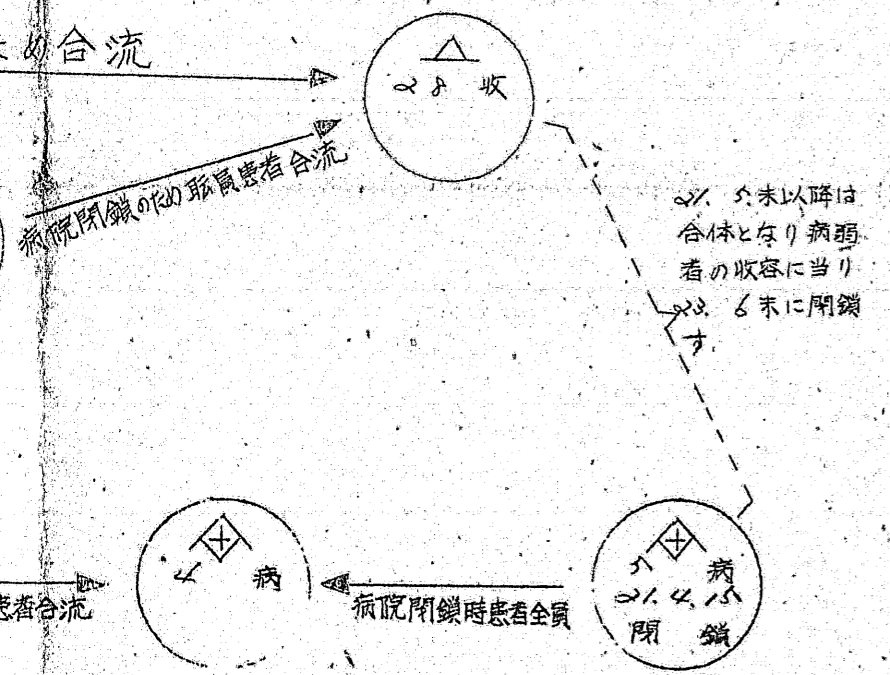




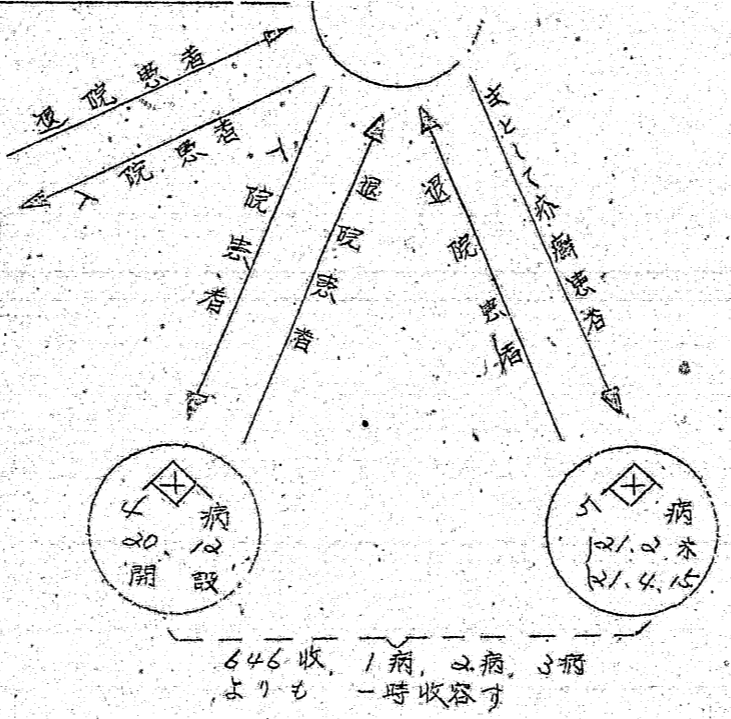
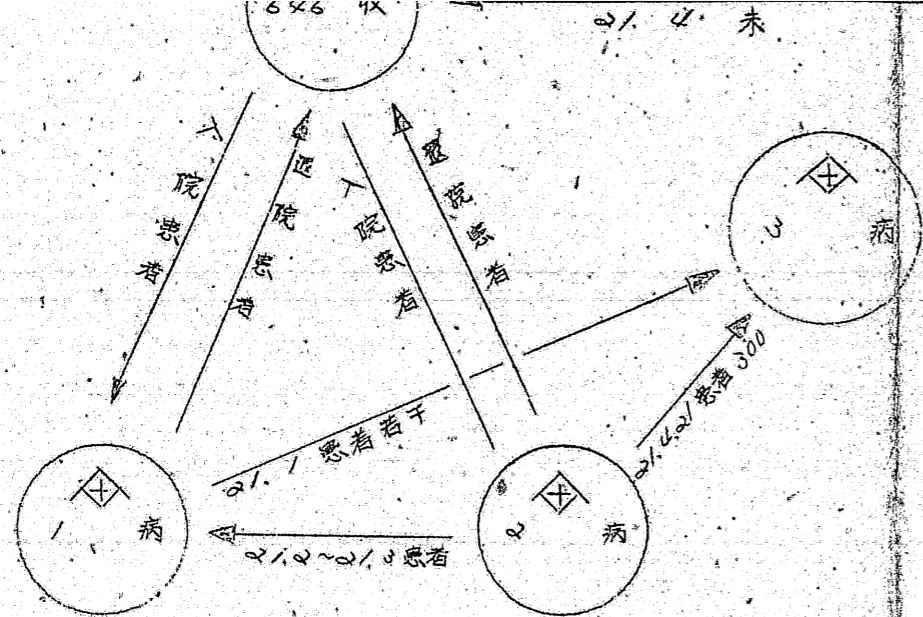
所	一病	二病	三病	所	四病	五病	容所
收容所	一病	二病	三病	收容所	四病	五病	独隊 兵隊 省公署
20.9.10 21.5.25	20.11.初 21.5.20	20.9.20 21.5.12	引続き 21.5.20	20.8.16 22.6.29	20.12. 21.5.未	21.2.未 21.4.15	20.8.24 21.4.24
將校 警察官 弱兵	主として 内部疾患	主として 米天患者 發疹チフス	主として 伝染 外科	下士官 兵 軍属	主として 皮膚病	主として 疥癬患者	主として 婦女子

646 収 1病, 2病, 3病
よりも一時收容す

開設初期 (20.8 ~ 20.11)

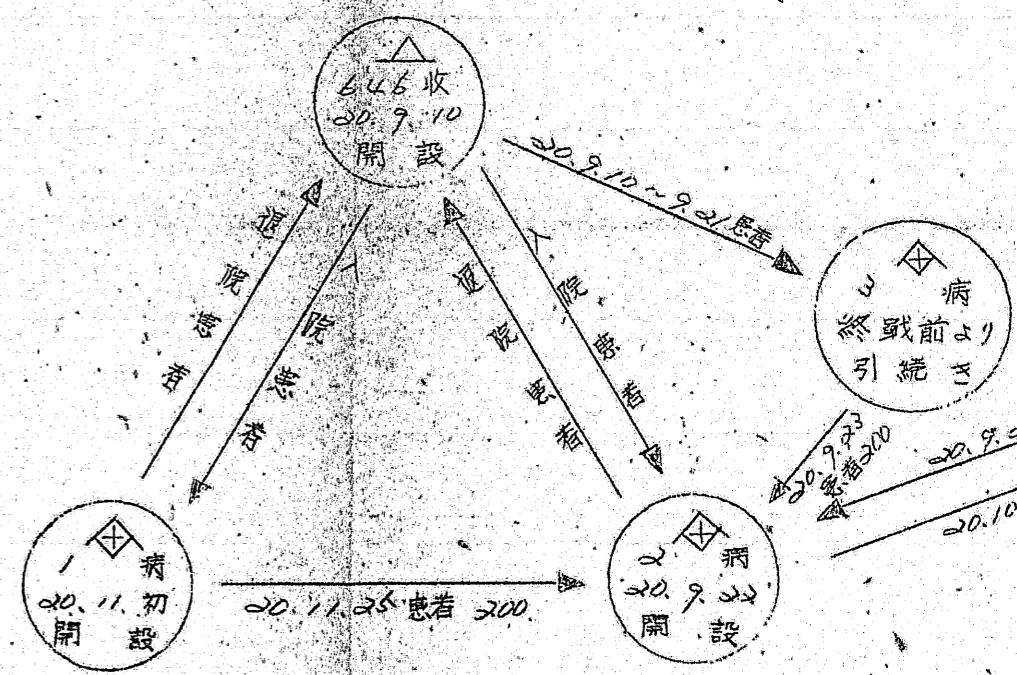
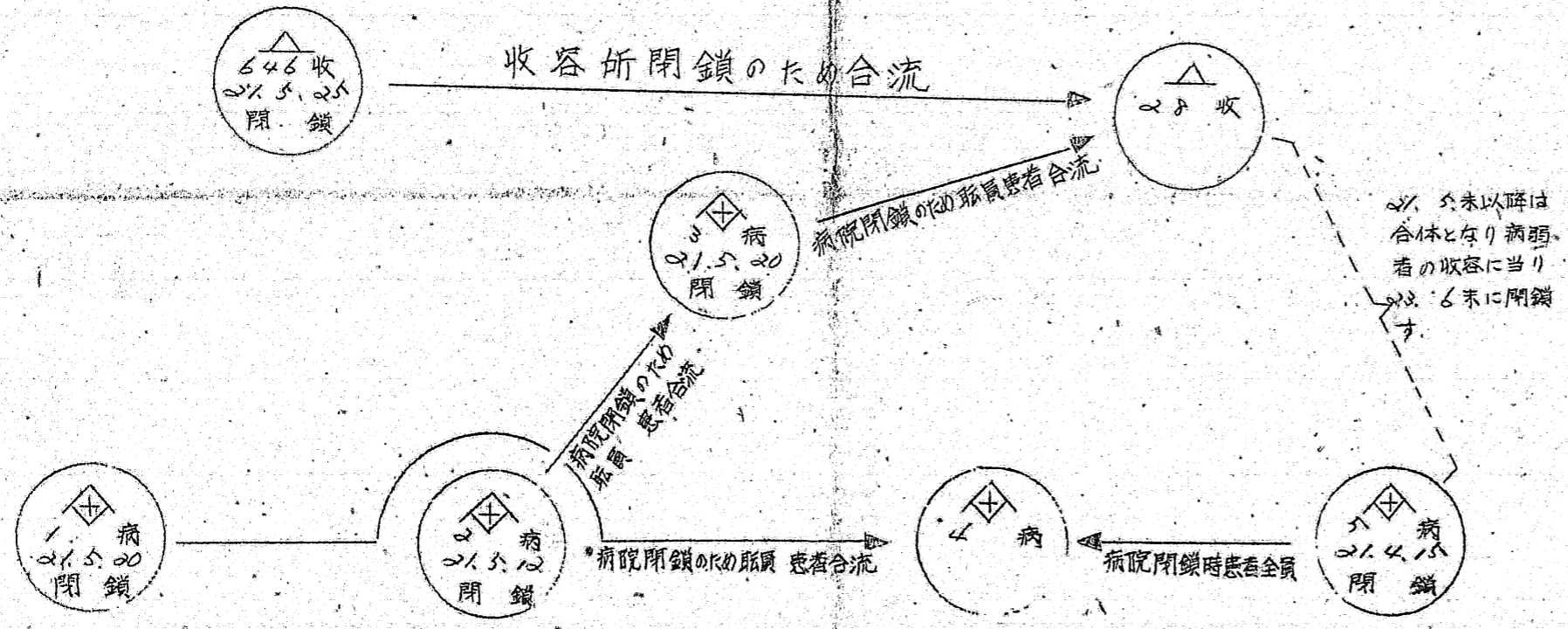


21.5.未以降は
合体となり病弱
者の收容に当り
22.6.末に閉鎖
す



收容所	一病	二病	三病	收容所
20.9.10 21.5.25	20.11.初 21.5.20	20.9.20 21.5.12	引続き 21.5.20	20.8.16 20.6.29
将校、警察官、弱兵	主として内部疾患	主として米天患者、發疹チフス	主として伝染、外科	下士官、兵、軍属

閉鎖時期 (21.5)



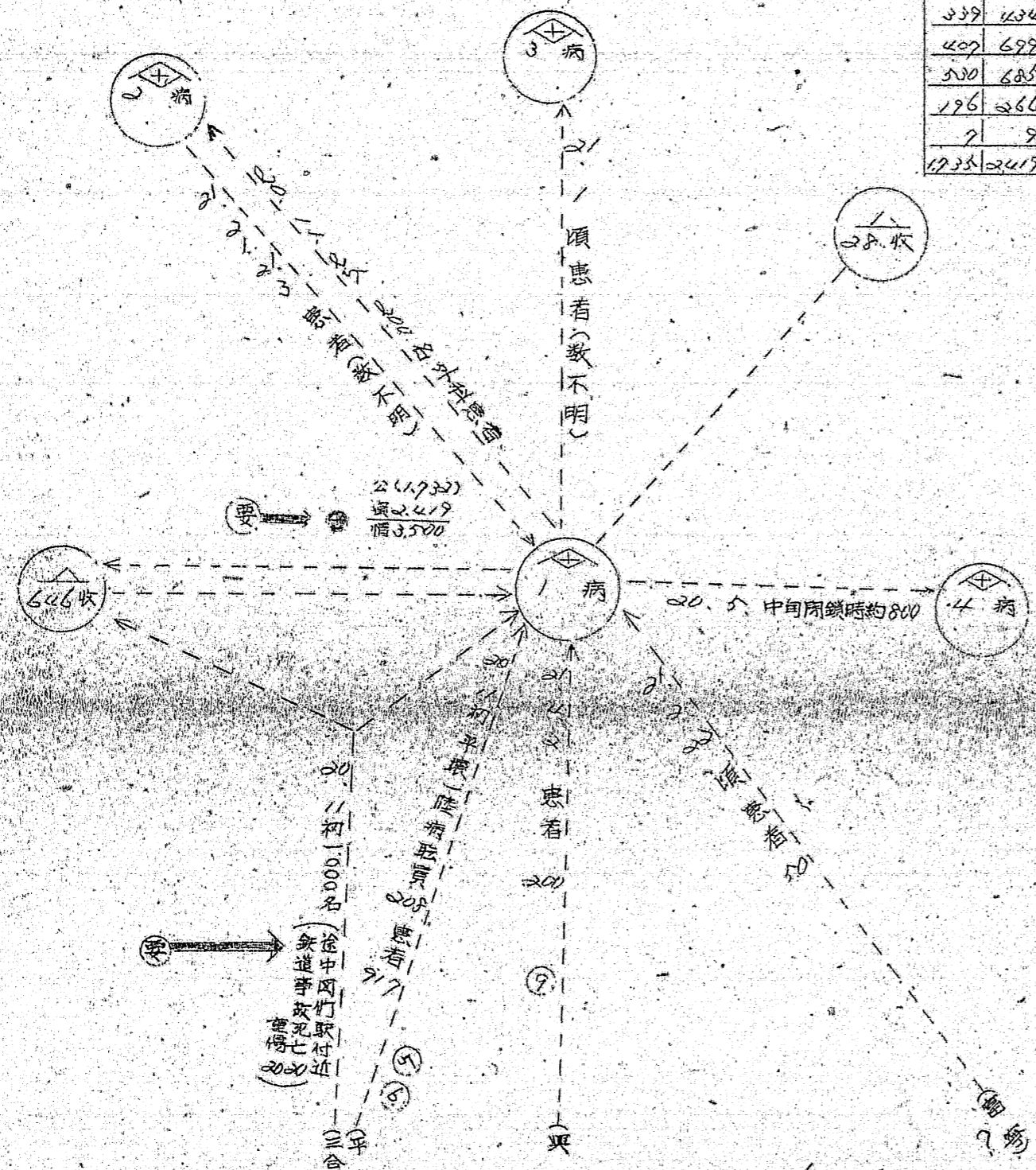
開設初期 (20)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="799 539 1032 981"><tr><td data-bbox="799 539 1032 759">1</td></tr><tr><td data-bbox="799 759 1032 981">2</td></tr></table>	1	2
1			
2			
分割撮影 した理由	A3版以上のため		
文書等名	延吉第一病院		
上記のとおり分割撮影したことを証明する。			

延吉第一病院

職員患者交流状況



公報済	個人資料	一般資料	計
3	3		3/20
4	6		9
5	6		10
53	88		11
188	243		12
339	434		11/21
407	699		2
520	685		3
196	266		4
7	9		5
1733	2419	3,500	計

月別死亡状況

(1) 延吉第一病院を閉鎖し延吉第四病院に合流した。

(2) 既に平壤に南下して来た新京第一第二陸病及公主嶺陸病と平壤陸病の販買患者一、二五名が20.10末ニケ梯団にて平壤出発。途中成興陸病の販買三四名患者若千名(三〇〇名)と合流して20.11初延吉に到着六四六収容所内に病院を開設した。病院長は元平壤第一病院水野次郎大佐で延吉第一病院(平壤病院)と稱した。

開設経緯

- (1) 収容患者は延吉編成作大の振り落とし患者と北鮮より北上した病弱者が主体で一部クラスキー方面よりの逆送者も受け入れた。
- (2) 収容患者は入院に至る逆送者の編成番により組織性に乏しく人名掌櫃が困難である。
- (3) 短期間に死亡多発し且勤務員自身が病氣となり勤務の交代頻繁なるため患者の人名掌櫃が困難である。
- (4) 病院別には赤痢チブス肺炎患者を主として収容し死亡者の大部分(ハニヤ)が栄欠に依るものである。

院長 水野次郎

第一病院編成(延吉)ノ頤人員

庶務	鈴木大尉
第一病棟	中村大尉(軍医) 下士官
第二病棟	西田大尉(軍医) 下士官
第三病棟	佐木大尉
第四病棟	叶田大尉
教育隊	高松中尉(軍医) 婦長
リンパ班	池田重子(看護士)
炊事班	吉田准尉(下士官) 兵曹
勤務隊	小笠原(尉) 二五

院縮成()ノ頃人員()

秀 鈴木 大尉

病棟 中村 大尉(軍医) 下士官 五兵衛 看護士()

病棟 山田 大尉(軍医) 下士官 兵衛 看護士()

病棟 佐々木 大尉

病棟 叶田 大尉

病棟 高松 中尉(軍医) 婦長 下看護士()

病棟 池田 中尉(看護士)

病棟 吉田 准尉(下士官) 看護士()

病棟 小笠原 中尉()

四 棟

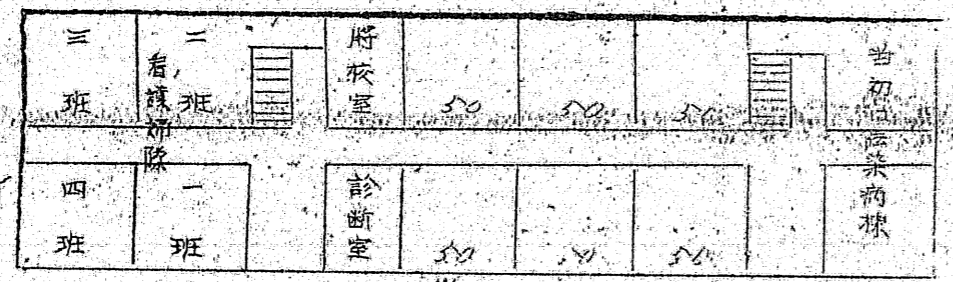
叶田 大尉
有福 見士
小崎 伍長
佐々木 伍長
渡辺 下士官
松本 下士官
古城 純吉
森田 由子

病棟病室配置圖

要調査事項

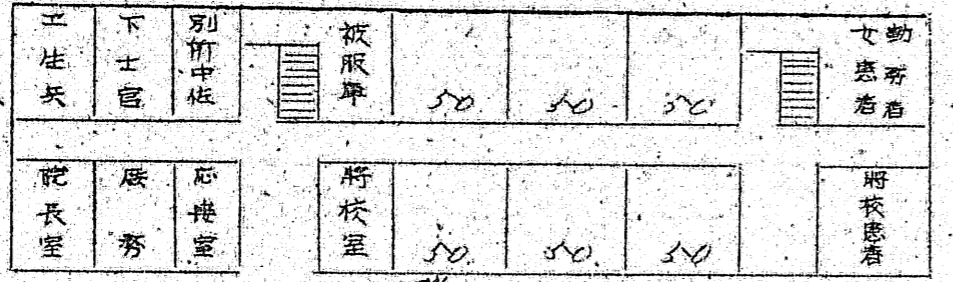
- 1) 此の病棟及収容所との交流
- 2) 新病棟(田) 移送患者の出入
- 3) 留用者 退院 市内解放
- 4) 交流 (一) 指揮官又は代表者
- 5) 勤務員の氏名 (一) 病棟別 時期別 勤務員の氏名及氏名
- 6) 患者收 (一) 部隊別 又は方面別 (二) 月別 病棟別に
- 7) 容区分 (一) 病名別
- 8) 死亡状況 (一) 時期別 病棟別 病名別 死亡数 (二) 死亡者の部隊別 又は方面別
- 9) 好資料保有者 (一) 上記項目に対する好資料保有者氏名

第一病棟(内科)



(階上)

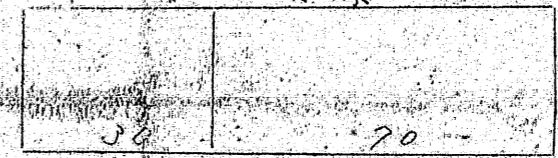
中村 大尉
井上 伍長
中村 伍長
伊藤 伍長
高松 伍長
佐々木 伍長
秋田 伍長
小林 伍長
水田 伍長
上田 伍長
田中 伍長
多田 伍長
高木 伍長
藤本 伍長



(階下)

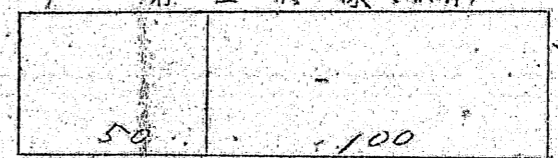
鈴木 大尉
池田 准尉
岩政 伍長
前 健造
吉田 伍長
麻田 重雄
内村 伍長
松守 伍長
志村 伍長

第四病棟(外科)

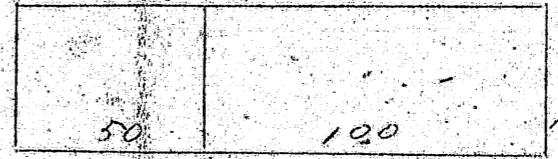


佐々木 大尉
崎中 伍長
小崎 伍長
崎中 伍長
大沼 伍長
中島 伍長
田上 伍長

第三病棟(赤痢)



第二病棟(赤痢)



三 棟

死亡が多かつた病棟

二 棟

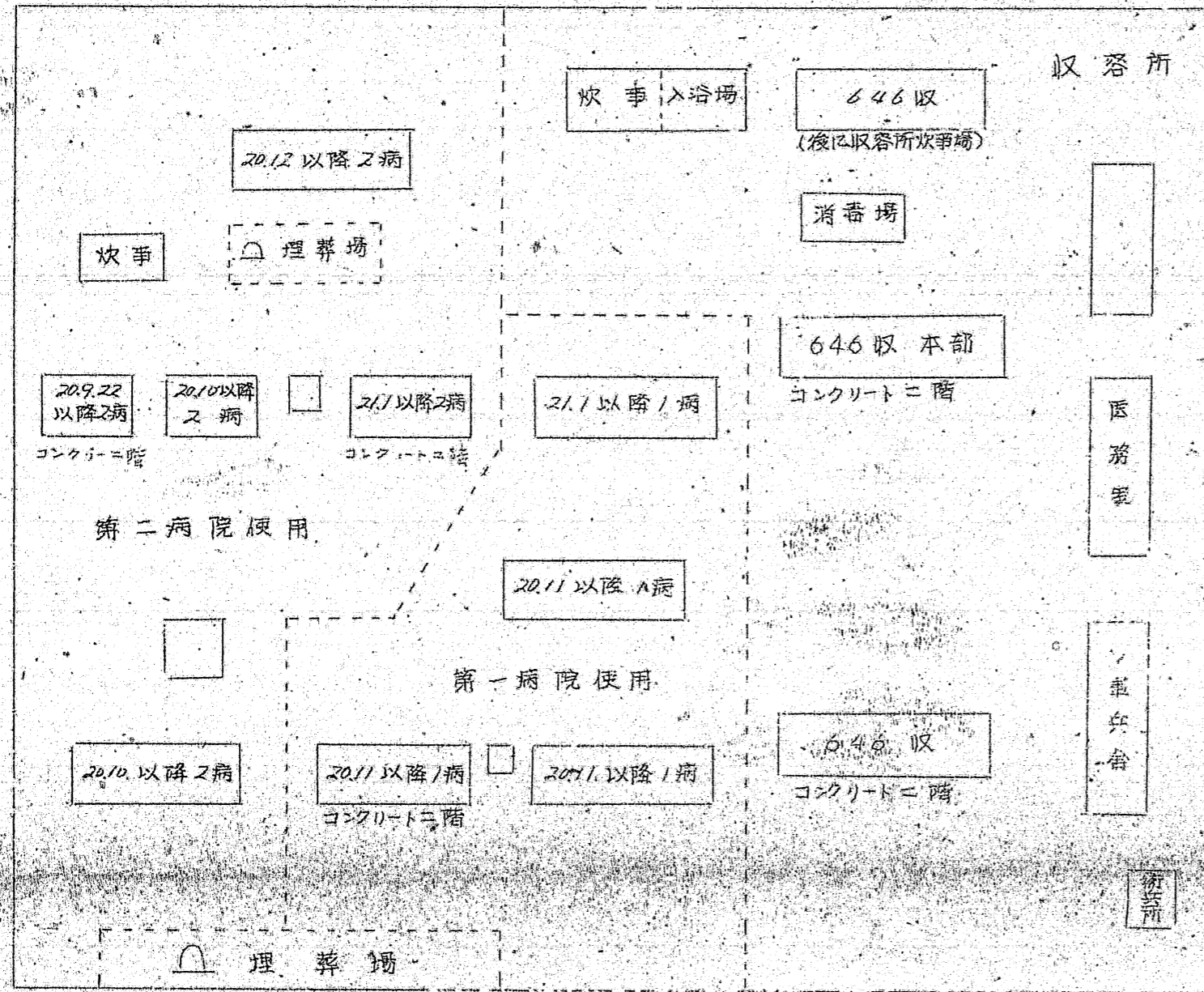
山田 大尉
本田 少尉
入野 伍長
栗原 伍長
竹本 伍長
高松 伍長
金井 伍長
黒川 伍長
倉田 伍長

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="799 539 1035 981"><tr><td data-bbox="799 539 1035 757">1</td></tr><tr><td data-bbox="799 757 1035 981">2</td></tr></table>	1	2
1			
2			
分割撮影 した理由	A3版以上のため		
文書等名	646収容所		
上記のとおり分割撮影したことを証明する。			

646 收容所

646 收容所建物配置図



最初は収容所として建物の大部分を使用した。第一病院は20.11.初旬以降、第二病院は20.9.22以降逐次病棟数を増し、20.1.以降は本図の如き区分となる。

要調査事項	
(1) 収容所	(2) 転入
(1) 収容所	(1) 収容所
(2) 死亡	(2) 死亡
(3) 機掃	(3) 機掃
(4) 機掃	(4) 機掃
(5) 機掃	(5) 機掃
(6) 機掃	(6) 機掃
(7) 機掃	(7) 機掃
(8) 機掃	(8) 機掃
(9) 機掃	(9) 機掃
(10) 機掃	(10) 機掃
(11) 機掃	(11) 機掃
(12) 機掃	(12) 機掃
(13) 機掃	(13) 機掃
(14) 機掃	(14) 機掃
(15) 機掃	(15) 機掃
(16) 機掃	(16) 機掃
(17) 機掃	(17) 機掃
(18) 機掃	(18) 機掃
(19) 機掃	(19) 機掃
(20) 機掃	(20) 機掃

収容所病との人員交流並延吉外との転出入状況

20.9.22 以降不明分	646 収容所定分	死亡数	病名別比率	月別死亡数
770	100	770	77%	7
52%	68%	47%	47%	24
18%	18%	4%	4%	106
30%	14%	8-10	8-10	228
7	2	8-10	8-10	133
24	1	8-10	8-10	164
106	14	8-10	8-10	90
228	34	8-10	8-10	18
133	17	8-10	8-10	
164	23	8-10	8-10	
90	9	8-10	8-10	
18		8-10	8-10	

死亡者名票統計

○開設及閉鎖経緯
1. 場所 延吉市外元満洲六四六部隊兵舎跡
2. 20.8.16 20.9.初 軍人軍属家族を収容
3. 20.9.10 ソ連の命に依り日本軍収容所となる
4. 20.11.25 収容所閉鎖、全員二八収容所に移る

○特性
(1) 当収容所開設当初は主として同島省並北鮮の將校及警察官を収容し後には北鮮よりの病弱者を多数クラスキーよりの逆送を受け入れた
(2) 患者は主として一病及二病に入院せしめられたが、20.12.以降は入院の暇なく死亡したものゝが相当数ある

六四六収容所司令部編成表

司令官 内山重臣少佐 (死)

身潔主計少佐 越田少佐

経理部 黒木主計大尉 (収容班) 外山主計少尉
柳井主計中尉
菅原主計少尉
岡村主計少尉
今西主計少尉
早瀬少尉
藤山少尉
富田少尉
酒井少尉

工作隊 井村建技大尉 原原中尉 外軍兵二名
軍医部 竹村重臣大尉 外将校三名 飯山准尉

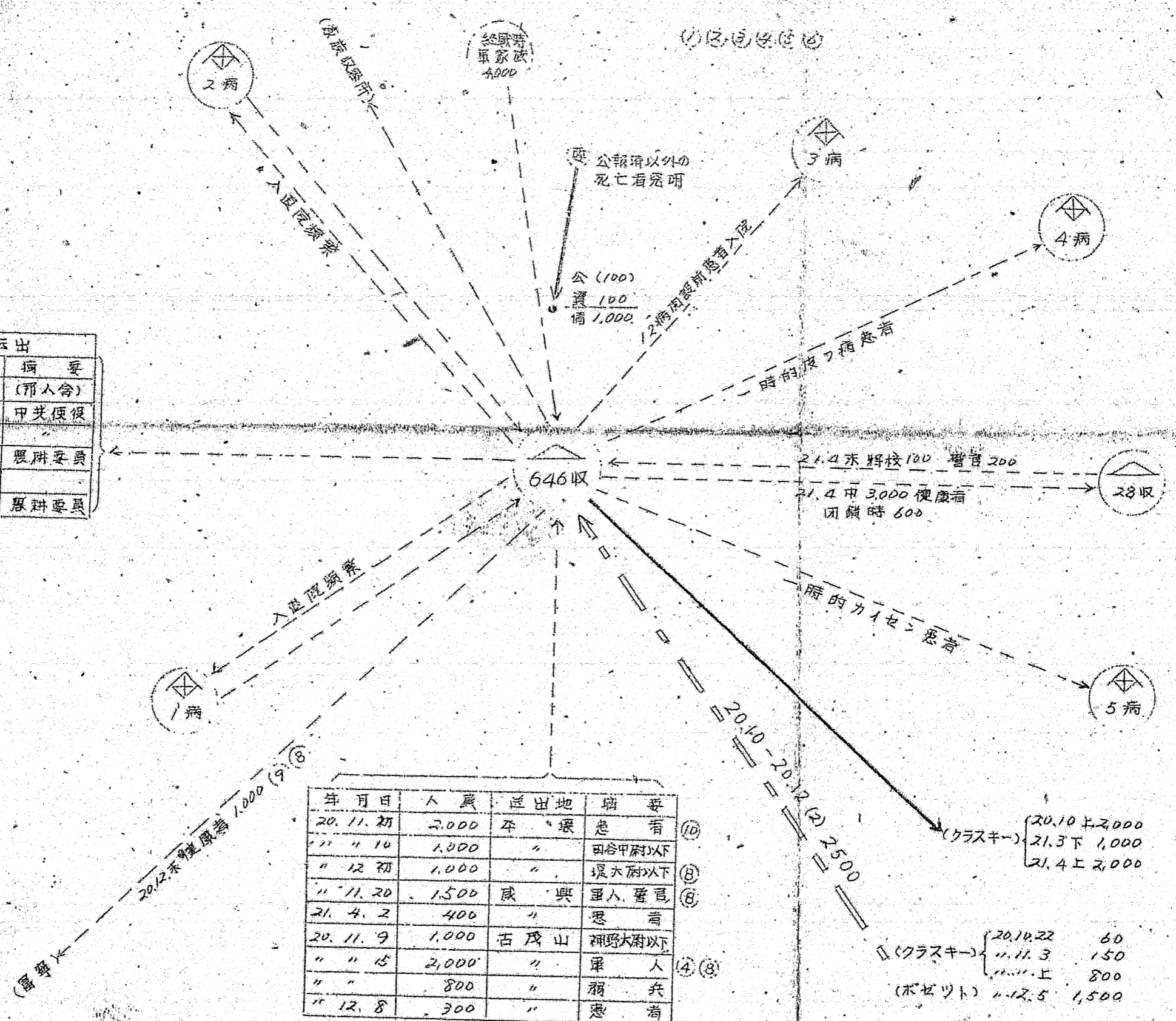
第一大隊 (月谷少佐) 一〇〇名
第二大隊 (南谷少佐) 一〇〇名
第三大隊 (榎 大尉) 一〇〇名
第四大隊 一病に入院多し
第五大隊 一病に入院多し
第六大隊 殆んど病人で作業は出来ず
第七大隊 二病に入院多し

20.11.25 向収容人員の一掃多し時は左の如く七大隊編成され

収容所病との人員交流並延吉外との転出入状況

要調査事項	
(1) 死亡状況	(2) 機掃機成
(1) 死亡者名	(1) 各大隊の編成人員
(2) 死亡時期	(2) 元所隊部
(3) 死亡場所	(3) 収容建物
(4) 死亡原因	(4) 収容建物別人員
(5) 死亡場所	(5) 収容建物別死亡数
(6) 死亡時期	(6) 収容建物別死亡数
(7) 死亡場所	(7) 収容建物別死亡数
(8) 死亡原因	(8) 収容建物別死亡数
(9) 死亡場所	(9) 収容建物別死亡数
(10) 死亡時期	(10) 収容建物別死亡数
(11) 死亡場所	(11) 収容建物別死亡数
(12) 死亡原因	(12) 収容建物別死亡数
(13) 死亡場所	(13) 収容建物別死亡数
(14) 死亡時期	(14) 収容建物別死亡数
(15) 死亡場所	(15) 収容建物別死亡数
(16) 死亡原因	(16) 収容建物別死亡数
(17) 死亡場所	(17) 収容建物別死亡数
(18) 死亡時期	(18) 収容建物別死亡数
(19) 死亡場所	(19) 収容建物別死亡数
(20) 死亡原因	(20) 収容建物別死亡数
(21) 死亡場所	(21) 収容建物別死亡数
(22) 死亡時期	(22) 収容建物別死亡数
(23) 死亡場所	(23) 収容建物別死亡数
(24) 死亡原因	(24) 収容建物別死亡数
(25) 死亡場所	(25) 収容建物別死亡数
(26) 死亡時期	(26) 収容建物別死亡数
(27) 死亡場所	(27) 収容建物別死亡数
(28) 死亡原因	(28) 収容建物別死亡数
(29) 死亡場所	(29) 収容建物別死亡数
(30) 死亡時期	(30) 収容建物別死亡数
(31) 死亡場所	(31) 収容建物別死亡数
(32) 死亡原因	(32) 収容建物別死亡数
(33) 死亡場所	(33) 収容建物別死亡数
(34) 死亡時期	(34) 収容建物別死亡数
(35) 死亡場所	(35) 収容建物別死亡数
(36) 死亡原因	(36) 収容建物別死亡数
(37) 死亡場所	(37) 収容建物別死亡数
(38) 死亡時期	(38) 収容建物別死亡数
(39) 死亡場所	(39) 収容建物別死亡数
(40) 死亡原因	(40) 収容建物別死亡数
(41) 死亡場所	(41) 収容建物別死亡数
(42) 死亡時期	(42) 収容建物別死亡数
(43) 死亡場所	(43) 収容建物別死亡数
(44) 死亡原因	(44) 収容建物別死亡数
(45) 死亡場所	(45) 収容建物別死亡数
(46) 死亡時期	(46) 収容建物別死亡数
(47) 死亡場所	(47) 収容建物別死亡数
(48) 死亡原因	(48) 収容建物別死亡数
(49) 死亡場所	(49) 収容建物別死亡数
(50) 死亡時期	(50) 収容建物別死亡数
(51) 死亡場所	(51) 収容建物別死亡数
(52) 死亡原因	(52) 収容建物別死亡数
(53) 死亡場所	(53) 収容建物別死亡数
(54) 死亡時期	(54) 収容建物別死亡数
(55) 死亡場所	(55) 収容建物別死亡数
(56) 死亡原因	(56) 収容建物別死亡数
(57) 死亡場所	(57) 収容建物別死亡数
(58) 死亡時期	(58) 収容建物別死亡数
(59) 死亡場所	(59) 収容建物別死亡数
(60) 死亡原因	(60) 収容建物別死亡数
(61) 死亡場所	(61) 収容建物別死亡数
(62) 死亡時期	(62) 収容建物別死亡数
(63) 死亡場所	(63) 収容建物別死亡数
(64) 死亡原因	(64) 収容建物別死亡数
(65) 死亡場所	(65) 収容建物別死亡数
(66) 死亡時期	(66) 収容建物別死亡数
(67) 死亡場所	(67) 収容建物別死亡数
(68) 死亡原因	(68) 収容建物別死亡数
(69) 死亡場所	(69) 収容建物別死亡数
(70) 死亡時期	(70) 収容建物別死亡数
(71) 死亡場所	(71) 収容建物別死亡数
(72) 死亡原因	(72) 収容建物別死亡数
(73) 死亡場所	(73) 収容建物別死亡数
(74) 死亡時期	(74) 収容建物別死亡数
(75) 死亡場所	(75) 収容建物別死亡数
(76) 死亡原因	(76) 収容建物別死亡数
(77) 死亡場所	(77) 収容建物別死亡数
(78) 死亡時期	(78) 収容建物別死亡数
(79) 死亡場所	(79) 収容建物別死亡数
(80) 死亡原因	(80) 収容建物別死亡数
(81) 死亡場所	(81) 収容建物別死亡数
(82) 死亡時期	(82) 収容建物別死亡数
(83) 死亡場所	(83) 収容建物別死亡数
(84) 死亡原因	(84) 収容建物別死亡数
(85) 死亡場所	(85) 収容建物別死亡数
(86) 死亡時期	(86) 収容建物別死亡数
(87) 死亡場所	(87) 収容建物別死亡数
(88) 死亡原因	(88) 収容建物別死亡数
(89) 死亡場所	(89) 収容建物別死亡数
(90) 死亡時期	(90) 収容建物別死亡数
(91) 死亡場所	(91) 収容建物別死亡数
(92) 死亡原因	(92) 収容建物別死亡数
(93) 死亡場所	(93) 収容建物別死亡数
(94) 死亡時期	(94) 収容建物別死亡数
(95) 死亡場所	(95) 収容建物別死亡数
(96) 死亡原因	(96) 収容建物別死亡数
(97) 死亡場所	(97) 収容建物別死亡数
(98) 死亡時期	(98) 収容建物別死亡数
(99) 死亡場所	(99) 収容建物別死亡数
(100) 死亡原因	(100) 収容建物別死亡数

収容所病との人員交流並延吉外との転出入状況



留用並使役の為転出			
年月日	人 員	行 先	備 考
21.1.中	400	丸 爺 谷 (刑人含)	
" 1.下	700 1,000	新京方面	中共使役
" 4.3	1,000	中共軍へ	
" 2.	400	琿春方面	慰問委員
" 2.	300 400	琿春 延山	
" 4.13	1,000	延吉正部	慰問委員

